

英米ジャーナル

The Eibei Journal



(2019年度CQU海外英語研修オーストラリア)

明海大学 外国語学部 英米語学科

2020年度 学科報告書

目 次

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉	1
英米語学科の新たな挑戦	1
2020年度英米ジャーナル刊行に寄せて	4
英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介	6
小林裕子ゼミ	6
川成美香ゼミ	10
河原伸一ゼミ	14
菊地翔太ゼミ	18
熊谷学而ゼミ	22
小谷哲男ゼミ	26
嶋田珠巳ゼミ	30
高田智子ゼミ	34
津留崎毅ゼミ	36
ケイコ・ナカムラゼミ	38
濱田彰ゼミ	42
前田隆子ゼミ	44
松井順子ゼミ	46
金子義隆ゼミ	48
高野敬三ゼミ	52
百瀬美帆ゼミ	56
卒業研究題目一覧	60
2020年度英米語学科卒業研究発表会・報告会	66
海外英語研修	67
CQU（オーストラリア）	67
名古屋外国語大学主催 学生通訳コンテスト	76
英米語学科同窓会 明英の活動報告	78
卒業生からの手紙	79
編集後記	81

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉

英米語学科の新たな挑戦

英米語学科主任 小林 裕子

2020年度の英米ジャーナル発刊に寄せて一言ご挨拶を申し上げます。本年度は新型コロナウイルスへの対応に心を砕いた一年でした。遠隔授業と対面授業が混在し、学生も教員もこれまでにない創意工夫を求められ、そして忍耐力も試される毎日でした。このような中で保護者の皆様にも遠隔授業実施にかかわる様々な環境を整えていただきましてありがとうございました。

当初、学科主任として英米語学科学生の学びの質の低下が最も懸念されることでした。対面授業でしか達成できない大切なものが得られない、厳しい一年になることを予想していました。しかしながら遠隔授業によって達成できる多くの貴重な発見もありました。その一端をここにご紹介したいと思います。



manaba では学生さんたちがレポートを提出する機会が圧倒的に増えました。これまでは授業中に意見を述べたい比較的積極的な学生が意見を発表するのが一般的でした。しかしながら manaba ではこれまでクラス内で発言してこなかった学生さんたちの、考え抜かれたレポートが多数寄せられるようになりました。これは全く新しい発見でした。授業資料を読み、じっくり考えてレポートを送信するという「自分自身の思考と向き合う時間」を経た「発言」が多く寄せられたことに学生さんたちの内的成長を強く感じ取ることができました。

ここに、学生さんから提出されたレポートの一部をご紹介しますことで、2020年度の

英米語学科学生の成長を英米ジャーナルの読者の皆様とともに振り返りたく存じます。

【高い利益を上げている薬品名一覧を見ての感想】（課題探求セミナー2年生）

・この中で1番の売り上げをあげているものがLIPITORというダイエット剤でした。また、世界の衛生問題などに対する簡単なワクチンなどの名前がここには載っていません。製薬会社の主流商品がダイエット剤だということに対して、「薬」が持つ役割として適当でないと感じました。ダイエット剤より安いワクチンの方が人の命を多く救うことができますが、製薬会社にとって利益のためにより不必要な薬を高額で販売し、高価な薬を作ることの方が大事なことになってしまっている現状があると思います。（K. M. 君）

・本来薬というものの概念・イメージは、“病を治す”というものだと思いましたが、まさに各々の売上高からわかるように近年は健康維持のためや一種のファッションのように外見の磨きのために使用する頻度が増えてきました。喘息の薬に関しては、一見上記で述べた概念とは例外だと思われるかもしれませんが、実際はとても関係していると思います。コレステロールを減らす薬などの売上高の多さからもわかるように、人間は動くことすら諦めかけています。人間の生きる生活自体がアップデートされても肺の成長を促すことなど些細な運動が劣化していっています。これからはクスリが薬でなくなってしまうのではないかと思います。（S. R. 君）

・全体的な薬の種類を見て生まれ持った持病の薬よりも生活習慣病や精神的なストレスから来る病気に対する薬が多いことが現代の社会を映していると思いました。数値を見ると一番高い売上高の薬の種類がコレステロールを抑える薬だと言うことで私たちは本来であれば使わなくても良い薬品を使用していることが分かります。生活習慣病は別名贅沢病と呼ばれているように規則正しい生活を送っていない事が原因です。自分たちの生活だけが豊かになるばかりで深刻な病気にかかっている人たちを治療する薬がリストアップされていないのは薬が行き届いていない証拠だと考えられ、上の設問の答えにも関連していると思います。他にも抗うつ剤や睡眠導入剤の売上高がリストに載るほど多いのは精神的に支障をきたして薬を飲んでいる人が多いということだと思うので社会的にも問題が有るのではないかと思います。（T. M. さん）

【英国首相がクリスマスに国民に送ったメッセージの感想】（時事英語3年生）

・こういった遊び心を忘れずに国民に接する首相がいる事で、国民の信頼を高め結果的に国全体に良い影響与える事になっていると感じます。私は日本の政治体制について1つ

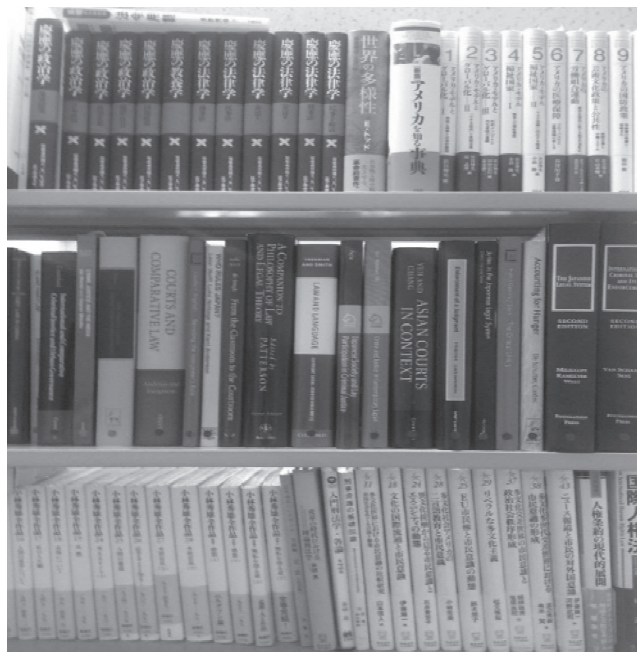
感じることがあり、それは、国民の一部にしか寄り添っていないと感じています。日本の政府も国民全体に寄り添う事で日本が抱える問題を解決する事に繋がると思います。(U. Y. 君)

【はやぶさ2のカプセルが無事回収されたニュースの感想】(時事英語3年生)

・私は小学生のころから『宇宙兄弟』という漫画に夢中で、よく空を見上げては登場人物たちのように宇宙やこの星の起源、生命などの思いや空想に耽っていました。そしていつしか私も宇宙飛行士かそれに関係した職業に就こうと夢見ていましたが、その夢もいつのころか諦めてしまいました。しかしこの世には純粋な宇宙への憧れを幼いころから大きくなっても大人になっても諦めず、目指し、遂にはその道に進んだ人々がいます。その情熱の塊のような人々が造った「はやぶさ」はある種の信仰の象徴、アイドルに等しいのかもしれませんが。私は、はやぶさを見ると人々の可能性を感じます。特にこの国の、この国の人々の。私はまだまだやれると信じています。(I. H. 君)

2021年度は原則、対面授業での授業実施が計画されております。manabaでの学びを積極的に組み合わせながら、多種多様な個性と才能を持った学生たちが、自らの成長を実感できる教育をこれからも推進すべく英米語学科教員一同、決意を新たに致しております。

引き続き英米語学科の教育へのご支援ご理解を賜れますようお願い申し上げます。



2020年度英米ジャーナル刊行に寄せて

副学長・外国語学部長 高野 敬三

学科活動報告である英米ジャーナルは、各先生が担当されている専門領域研究講座や卒業研究で学生の皆さんがゼミ担当の先生方の下で、どのような研究をしているのかがよく分かる報告書となっております。2年生が第3学年からの専門領域研究講座を履修する際の貴重な参考資料ともなっております。そこでは、学生の語る内容をとおしてゼミの内容や担当教員の個性がよく表れています。今年度も英米語学科の各ゼミからメッセージが届いています。

卒業生の皆さんは、明海大学の英米語学科ではどのような学修をしたのか、どのような大学生活であったのか、社会に出てからも自分の軌跡を振り返ることのできる本報告書を是非、時折、目を通して学生時代を思い出してください。

在学生の皆さんは、時に本報告書を読んで、本学英米語学科を卒業するまでの自己の未来である「行く末」を考えてほしいと願っています。

2020年は、前年に中国武漢で発生されたとした新型コロナウイルスの感染が拡大して、日本はおろか世界中でパンデミックが席捲する中、人々の生活や教育が大きく変わりました。当初予定されていた東京オリンピック・パラリンピックの開催が1年延期となったばかりでなく、本学においては、他大学と同様に、臨時休校を経て、遠隔授業・対面授業のハイブリッド型の講義となりました。夢を膨らませ入学した1年生、就活に専念しなければならない3,4年生のみならず、すべての学年の学生が大きな影響を受けたこととなります。2021年においてもコロナ禍は決して収束することはないでしょう。

こうした中であっても、英米語学科の先生方は、学生第一と考え、皆さんの心のケア、学修意欲の向上に腐心して指導してまいりました。学生の皆さんは、是非、こうした先生方に応えるとともに、予測困難な時代において、他の学生と協働して、「正答がない」問いに対して納得解を生み出してほしいと願っています。





英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介

小林裕子ゼミ

専門領域研究講座

3年 藤本 華

画面や音声。夢中になって見る、あるいは聞く際に使用する媒体。そして内容。とても便利な機器や興味深い事柄で溢れている現代と、皆さんはどのように向き合っていますか。正しい向き合い方ができているでしょうか。小林ゼミでは、世界情勢を把握し、時事問題に向き合うことで視野を広げ、自身のスキルに磨きを掛けることができます。

今一度、テレビやスマートフォンの画面の先に見える内容、そして、イヤホンの先から聞こえてくる内容を確認してみてください。バラエティ番組やアニメ、動画やSNS、好きなアーティストの方の曲など、自分好みの内容のみに目を向け、耳を傾けていませんか。今後、社会に出る上でこのような習慣が当たり前になってしまうことは、非常に危険です。就職活動の面接などで、「気になるニュースは？」と聞かれても、受け答えができなくなってしまうかもしれません。この重要な受け答えの力を養いたいと思いませんか。

実は、「何か面白い話ある？」という言葉から始まるのが小林ゼミです。ニュースで気になったことや考えたことを共有し、自分の意見をしっかりと伝える環境が整っています。他のゼミ生からの意見を聞くことができるのはもちろん、自分が把握し切れていなかったニュースの内容にも出会うことのできる、非常に有意義な時間となっています。毎回恒例となっているからこそ、どんな題材を話すのが良いかを追求するようになるので、ニュースに目を向けることも、次第に習慣の一つとして定着するようになります。

授業では、先生が用意して下さる英字新聞のプリントを使用し、英文解釈を進めます。もちろん、新聞に使われる英語なので、難易度の高いものがほとんどです。そのため、翻訳の際、言葉に詰まることは多々ありますが、自分の力で理解するという軸を崩さない程度に先生がヒントをくださいます。なので、訳し終えた後には、大きな達成感を得られます。ただし、高校までに学習してきた内容や基本的な単語に関しては、自らの力で答えられないと、身の引き締まる思いとなるお言葉を受けることになるので、最低限の知識は備えておくのが理想的です。

このように、ニュースの内容と文章の双方へ向き合うことを楽しみながら学習に励んでいます。

また、勉強だけでは終わらないのが、このゼミの特徴です。日常生活を見直すことができる機会もあります。例えば、ドアの閉め方や廊下の歩き方、駅で改札を通る際のICカードの翳し方などの守るべきマナーです。大学生になった以上、ある程度の常識を弁えて生活する様子があるべき姿ですが、気を緩めてしまい、マナーから逸脱した行動を取ってしまう人は少なくありません。そのような行動は、社会に出てからも自然と出てしまうため、何気ないと感じる一つ一つの行動も指導していただきます。ここまで考えて、正しい方向へと導いていただける機会は、紛れもなく貴重な時間だと感じます。

厳しい言葉と優しい言葉のそれぞれを、適する場面で率直に伝えてくださるからこそ、どんな時でも親身になってくださることを痛感し、些細なことから就職活動まで、様々な面において支えていただいています。一人一人に寄り添い、真剣に向き合ってください先生を、私たちゼミ生はとても信頼しています。

知識と倫理観を養い、真の社会の一員になるための準備時間が唯一無二の形である、それが小林ゼミです。



普段なんとなく見ているニュース番組やネットに書かれている記事。皆さんはそれを見て何か考えたり、行動を起こしたりしていますか？以前の私であれば、その事実だけを受け止め、他人事であるかのようにスルーしていたと思います。

小林先生のゼミでは、毎回先生が印刷してくださった英字新聞をゼミ生で読み進め、その内容についてみんなで考えていきます。主に世界情勢や時事問題に関する記事を扱うため、内容を理解するのは容易ではありませんが、途中で先生からヒントをいただいたり、その問題が起こった背景や経緯についても解説してもらえるため、全員が新聞に書かれている内容だけでなく、その原因について考えることができます。

また、先生はよく授業の最初に「何か面白い話ある？」と尋ねます。ここで先生やゼミ生がニュースを見て気になったことや日常生活で疑問に思ったことなどを共有し、話し合います。話し合いでは、それぞれ違った観点からの意見がでてくるのでとても面白く、勉強になります。面白い話や世の中への不満が多いと、90分全て話し合いで授業が終わることもあります。

4年生になると卒業要件である卒業研究の提出を課されます。テーマはゼミで扱った内容の中で特に興味を持った問題や内定先で活用できそうな内容など各々が興味のあるテーマを見出します。そして、テーマの内容について調べ、自身の意見や考えを交えながら書いていきます。テーマは何にするか、どのように書き進めていくかなど迷うこともありますが、悩んでいるときは先生が相談に乗ってくださるので、素晴らしい卒業研究を完成することができます。

また、小林先生は授業以外でも就職活動や個人的な悩みに関しても親身に相談に乗ってくださります。2020年は新型コロナウイルス流行により、前学期の授業はすべて遠隔授業に切り替わってしまったのですが、先生から定期的に連絡をいただき、就職活動の心配をしてくださりました。学生1人1人に寄り添い、親のように常に気にかけてくださるので、私たちも心から信頼しています。

私はゼミを通して、自分があまり関心を持たなかった政治や国際に関する問題などを他人事で済ませ、何も考えずに受け身で居続けてしまうことがどれだけ危険なのかということに気づかされました。世の中の出来事にアンテナを張り巡らせ、それに対して自分はどう思うのか、どう対処すべきか考え、行動するということの大切さを学びました。さらに、ゼミで扱う内容は社会人になるうえで必要最低限の知識であり、それに対して自分の意見を持つということも社会人として当たり前の

習慣です。このゼミでは社会に出る前に大切な知識やスキルを身に着けることができます。就職を希望されている方は是非、小林先生のゼミを受講してみてください。



川成美香ゼミ

専門領域研究講座



3年 西川 香織

川成ゼミでは、「社会言語学」について学んでいます。社会言語学とは、ことばと社会がどのように関わっているのかを研究する学問です。例えば、階級や性別による言語選択の違い、国や住んでいる地域による言語の違い、丁寧表現などを学びます。社会言語学を学ぶことによって、私たちがコミュニケーションの道具として毎日使用していることばが、いかに社会的・文化的背景に影響されているのかを知ることができます。

授業では、英語の論文や日本語の教科書を使います。はじめに、英語の論文を自分の力で和訳することで、ことばと社会が深く関わっていることを理解していきます。英語の論文を読み終えた後に、日本語の教科書に入ります。この教科書の進め方としては、各章ごとに担当者を決め、要点をまとめたレジюмеを作成しプレゼンテーションを行います。また、川成先生がご担当の講義科目である「異文化コミュニケーション概論」や「英語圏の文化と社会」も同時に受講するので、ことばが話者の社会や文化に影響されていることをさらに深く学ぶことができます。残念ながら今年のゼミは、新型コロナウイルスの影響で例年通りのゼミではなくなっていました。本来ならば、4月当初に明海大学のレストラン・ニューマリンズで恒例のパフェをいただきながら自己紹介をしたり、ホテルのビュッフェレストランで食事会をする予定でしたが、「ソーシャルディスタンス」や「3密を避ける」などといったコロナ禍の影響により、これらを行うことができませんでした。楽しみにしていた勝浦セミナーハウスでの合宿も中止となりました。また、日頃は当たり前である教室内での対面ゼミ授業も、感染拡大防止のために、ZOOMでリアルタイムのリモート

ゼミを行うこともありました。コロナ禍により、川成ゼミの伝統的なゼミ形態ではありませんでしたが、社会言語学の知識をきちんと得られたことに変わりはありません。

川成ゼミでは、「ゼミ論文」の作成が最大の目標といえます。ゼミ論研究では、社会言語学において自分の興味のあるテーマを決め、それに沿って映画などから独自のデータを収集し、分析していきます。私は、「言語の男女差」に興味があり、ゼミ論ではこれを映画のセリフをもとに日本語と英語で比較するという研究テーマにしました。日本語の場合は、男ことばや女ことばがあるので性差は明らかですが、英語では一見すると、性差がないように思われます。しかし、実は女性により好んで使われることばや話し方などといった性差が英語にも存在します。このようにゼミ論では、自分の興味あるテーマについて実証的な研究することで、新しい知識を得ることができます。これは、4年生で必修となる卒業論文の作成につながる準備となります。本来ならば、勝浦セミナーハウスの合宿で「ゼミ論発表会」と4年生の先輩方の「卒論発表会」を合同で行う予定でしたが、コロナ禍によりオンラインで各自の自宅から ZOOM での発表会参加という形になりました。しかし、4年生の先輩の卒業論文を聴けるとともに、川成先生から一人一人に細かい講評をいただき、それをゼミメンバー全員で共有するので、オンラインでも約 3 時間におよぶとても充実した発表会となりました。

私は当初、「社会言語学」という未知の世界に踏み込むのはとても不安で、さらには、授業内でのプレゼンテーションやゼミ論文の作成など、きちんと自分の力で行うことができるのか心配でした。しかし、いざ「社会言語学」について学ぶと、ことばと社会・文化との関係性がとても奥が深く、面白いと感じるようになりました。また、プレゼンテーションやゼミ論を通して大きな達成感が得られるのと共に、自分に自信がつかしました。プレゼンテーションは、社会に出て必ず必要なスキルだと言えるので、この川成ゼミでは、こういった自分に必要なスキルも磨くことができます。私はこの川成ゼミで、社会言語学を学べたと共に、大きな達成感を得ることができました。4年生になって今度は卒業研究に取り組むことが楽しみです。

社会言語学に興味のある方はもちろん、社会言語学を全く知らないという方も、一から学ぶことができるので心配はいりません。少しでも言語に興味のある方は、ぜひ川成ゼミで学ぶことをおすすめします。

ゼミ論題目一覧

市原 誠司	若者ことばの語彙における日英比較
遠藤 紗矢花	アメリカ英語のコメディドラマにおけるポライトネス・ストラテジーの使われ方
大野 裕聖	会話における表情の表出の日米比較 ～映画『Shall we ダンス?』を用いて～
岡村 展典	映画における日英会話スタイルの違い
影山 瑞季	化粧品 CM からみるジェンダーイデオロギーの変遷
西川 香織	会話における日本語と英語のことばの性差
湯川 大輝	若者ことばの使用度に関する男女差 ～日本人とアメリカ人の高校生を対象として～

卒業研究

4年 山田 武志

川成ゼミでは、「社会言語学」について深く学ぶことができます。具体的には、ことばによる丁寧表現や言語と社会階級、言語の年齢差、日英語の会話のしくみなど、様々なことばの側面について言語・社会・文化を絡めて研究します。3年次のゼミ「専門領域研究講座」では、まず始めに、社会言語学とは何かを学びます。授業内容としては、教科書や論文を精読し、把握した内容について各自でレジュメを作成したうえで、プレゼンテーションを行います。このような取組みにより、「社会言語学」をより深く理解することができます。また、レジュメの作成では文書を組み立てる力が養われ、プレゼンテーションにより口頭表現力を身につけることができます。そして、3年次の後半には、自身が興味を持ったテーマについて、独自のデータを収集し、集めたデータの分析・考察を行い、オリジナリティのあるゼミ論文を作成します。このゼミ論文の作成は、4年次での「卒業論文」に向けての大事な準備となります。

4年次のゼミ「卒業研究」では、卒業論文の製作に入っていきます。今年度は、コロナウイルスの影響に伴い、多くの授業が遠隔授業になりました。川成ゼミでは、基本は対面授業でしたが、場合に応じて Zoom 授業などを取り入れていました。前学期の開始時に、まずは自身で年間スケジュールを組みます。その後は毎週の授業の際に、卒業研究と就職活動の進捗状況を報告します。私は、スケジュール通りに進められず、卒業論文の完成が危ぶまれていました。また、卒業後の進路も決めきれない状態でしたが、川成先生からの的確なアドバイスのおかげで、卒業論文はまとまり、就職先も決めることができました。

3年次のゼミ論文では、ポライトネス理論を用いて、コンビニエンスストアや飲食店などでの会計時の場面に注目して、お客の対応について丁寧表現の視点から研究を行いました。ゼミ論文で納得のいく研究ができたことから、卒業論文でもポライトネス理論を用いてより深い研究をしようと考えました。また、翌年から社会人となることをふまえ、ビジネスの視点も研究に絡めたいと考え、「ビジネストークにおけるポライトネス研究」を卒業研究のテーマとしました。研究の目的は、ビジネスの成功にコミュニケーション上のポライトネスは関係するののか、また、どのような場面でポライトネスは使用されているののかを明らかにすることでした。私は、ビジネスの成功者を連想した際に、Apple 社の創業者である「スティーブ・ジョブズ」が一番に思い浮かびました。そのため、彼の伝記映画である『スティーブ・ジョブズ』をデータ分析の資料として用いて、研究を行いました。分析に使用する会話データを英語版字幕と日本語版字幕から抜き出し、まとめる作業がとても大変でした。しかし、映画『スティーブ・ジョブズ』の内容自体がとても興味深いものであったた

め、苦痛と感せず、正確に会話データを収集することができました。また、データ分析や論文執筆の過程においては、データ解釈の方法や意味が伝わりづらい文章表現について、川成先生が懇切丁寧なご指導をして下さいました。そのようにして、「ビジネストークにおけるポライトネス研究—Brown & Levinson のポライトネス・ストラテジーを用いて」と題する卒業論文（24 頁）を仕上げることができました。



最後に、大学生活を振り返ると、4 年次での卒業論文の製作が最も印象深いものとなりました。長時間物事に取り組むことがあまり得意ではない私は、気がつけば別のことに脱線したり、つい休憩をはさんだりしてしまいます。しかしながら、卒業論文ほどこれまでの人生で集中して取り組めたものはありませんでした。そのため、卒業論文を完成できたことに対して、驚きと共に、とても大きな達成感を覚えています。ゼミの分野である社会言語学の知見や、プレゼンテーションのスキル、文書を作成するためのスキルなど 2 年間で得られたものは、社会人として仕事を遂行する上で、とても重要であると思います。川成先生には、ゼミ論文、卒業論文をはじめ、プレゼンテーションやレジュメ作成、そして進路に至るまで、本当に多くのことに対して親身になってご指導をして頂きました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

社会言語学に関心がある人、就職後にも活かせるスキルを身につけたい人、そして、大学生活の最後に大きな達成感を得たい人には、ぜひ川成ゼミで学びを修めることをおすすめしたいと思います。

河原伸一ゼミ

専門領域研究講座

1 就活に役立つ（その1）情報収集力を高める

河原：私は以前、中央官庁やモスクワの日本国大使館で「調査」の仕事をしていました。情報源の大部分は、公開情報です。国内外の新聞を読み比べ、違和感を持った部分について、人脈を活用してさらに調べていました。

学生（3年 菅原優香）：皆さん、毎日、新聞を読んでいますか。

河原ゼミでは、新聞記事を読み込みます。様々なジャンルについて知ることができ、就活に役立つ知識も身につけることができます。授業では記事を読み進めながら、河原先生が解説を加えてくださいます。知らないこと、分からないことが出てくると、ゼミ生同士で意見を出し合いながら理解を深めます。知っているつもりでも、あまり知らなかったという内容のときは、もう一度調べ直して知識を増やしていきます。知らなかったことが悔しいと思うこともあり、しっかり知識を身につけたいという気持ちになります。難しい内容のときは身近なものに例えたり、例をいくつか出したりしながら、河原先生が一つ一つ丁寧に分かりやすく教えてくださり、しっかり理解することができます。

学生（3年 高須美祐）：皆さん、就活のグループ・ディスカッションでも役立つ考える力をつけたいと思いませんか。

河原ゼミでは、他のゼミ生と意見交換をするので、自分の考えを共有すること、自分では考えられない価値観に触れることができます。問題について多角的に考えることを必要とするため、自分の中で思考が柔軟になり、複数の意見を考えられるようになります。この思考プロセスを毎週鍛えることで、就活でも自分の意見が他の学生と重なってしまった際、他の角度から意見を述べるができると思います。もし、議論の中でわからない語彙があったとしても大丈夫です。先生がわかりやすく、具体例を挙げて説明してくださいます。その具体例も実際に先生が外交官時代に体験したことを混ぜて話してくださるので、説得力も面白さもあり、楽しく授業を受けることができます。就職の面接並みに瞬発力が鍛えられます。また、自分の意見を言うのが苦手だと思ってしまう学生は結構多いのではないのでしょうか。私もそのうちの1人です。最初は緊張してしまい、億劫だなと感じることがありました。人間というものは慣れというものがあります。何回も発言することで、段々

と緊張も解けていきます。テーマと論点がズレていたり、間違っただけの表現をしても、ユーモアたっぷりに先生が直してくださり、明るい雰囲気がある授業にしてくださいます。大学は間違えて学んでいくものだと感じることができます。

2 就活に役立つ（その2）お仕事をイメージする

河原：ゼミでは、お仕事小説を多読します。お仕事小説の魅力は、自分が登場人物の立場なら、どのような意思決定を行ったかを考えながら読めることにあります。就活などに役立つ知的活動です。

学生（3年 菅原優香）：皆さん、紙の本を読んでいますか。

ゼミの日、河原先生はたくさん本を持って来てくれます。その本の中から毎週、一冊お借りして読んでいます。自分で書店や図書館に行って、本を選んでみようと思いつつも、なかなか自分からいつも読まないジャンルの本に手を出すことはありませんでした。先生が厳選された本は、ビジネス関係の内容や就活に役立つような内容の本です。毎週、新しい本に出会い、新しい発見をすることができます。読んだ本について、ゼミ生間で意見を交換することもあり、ただ読むだけでなく、読んだ後に理解したことを自分の言葉で表現することで、本の内容についてどのくらい理解できていたのか、再確認することができます。私は本を読む習慣がほとんどなかったため、初めの頃は読むだけでも大変でしたが、本を読み終えた後には、今までの考え方や視野が狭かったことに気づいたり、考え方の幅が広がったりするので、とても良い習慣ができました。次はどの本を読もうかと毎週、ゼミの日を楽しみにしています。

学生（3年 高須美祐）：本を読んで知識を増やしたいと思っても、何の本を読んだら良いのかわかりませんでした。

河原先生は就活に役立つビジネスの本をたくさん持って来て、毎週、私たち学生に選ばせてくださいます。1週間で一冊の本



を読むというのは、最初は少し辛いかもしれませんが、これも慣れてくるので大丈夫です。本を読んだ感想を次の授業で他のゼミ生と共有するので、自分の思考力や発言する積極性を身につけることができます。こうして発言する機会をたくさん用意してくれるので、段々と度胸も付いてくるようになります。

卒業研究

河原：私は、学部ときは「外交政策決定過程」、大学院ときは「効率的市場仮説」を卒論のテーマとしました。研究成果は、その後の大使館や金融財務部門での勤務で活かすことができました。学生の皆さんにも、将来を視野に入れた卒論や世の中を変える卒論に取り組んで頂ければと思います。

学生（和田伸吾 4年）：卒論は、自分の興味を持ったことについて研究することができます。河原ゼミでは、自分の卒論のテーマを授業で扱ってくれます。卒論を書いていると途中でつまづいてしまったり、方向性を見失ってしまうことがありますが、先生に困っていることを伝えれば、親身になって教えてくれます。自分は卒論に取り組むのが遅く、提出も他の人より遅れてしまいましたが、すぐに添削をしていただきました。自分の論文の足りない部分を的確に指導していただけるので、スムーズに執筆を進めることができました。

河原先生は、英語の資格の他に、証券アナリスト、行政書士、宅建士など数多くの資格をお持ちです。河原ゼミでは、就活や卒論だけでなく、資格取得も手助けしてくれます。



TOEIC や英検だけでなく、日商簿記などの資格も教えてもらうことができます。河原先生は、学生のやる気にきちんと応えてくれます。就活や将来のことで悩んでいる人は、河原ゼミに入ってみてはいかがでしょうか。

4 就活に役立つ（その3）人脈を広げる

河原：私の研究テーマのひとつに「ソーシャルキャピタル」があります。河原ゼミは、人と人をつなげる機能を果たしています。

学生（橋本美玖 4年）：河原先生の人脈の広さには驚かされます。学生ではお話しする機会がないような国会議員、県議会議員、市議会議員や会社社長、政府関係者、河原ゼミOB/OGの方など様々な業界の社会人と意見交換できます。また、米国やロシアなどに勤務された元外交官である河原先生の豊富な経験についてのお話しは自分の知らない世界ばかりで、聞くたびにワクワクする気持ちになり、勉強や資格取得などのモチベーションも上がります。ゼミの雰囲気はとても和やかです。河原先生は、私たち学生のふと思った些細な疑問に答えてくれたり、就活・就職の悩みを聞いてくださったりします。私自身、周りに人生の大先輩として気軽に悩みを相談し、アドバイスしてくれる存在が河原先生しかいないため、色々と相談させていただきました。河原ゼミに入ったことで人生の選択肢が広がり、ゼミに入って本当によかったと思います。



菊地翔太ゼミ

専門領域研究講座

3年 柴田 柚菜

菊地ゼミでは教科書やコーパスを用いて、英語が現代に至るまでにどのように変化してきたか、なぜそのような変化が起こったのかを学ぶことができます。菊地先生は、学生からの質問や疑問に対して、学生が理解できるまで真摯に向き合ってください、参照すべき文献等も紹介して下さるので、英語力だけでなく自主性も高めることができます。このゼミを通して、英語史に関する知識を深められたのと同時に、自分の興味関心のあることを積極的に学ぶ姿勢を身につけることができました。

3年 菊池 峻平

菊地ゼミでは、教科書を使って、英語がどのように誕生し、現代の英語へと変容していったのか、また、変化の背景にはどのような出来事があったのかなどを考えながら学んでいます。授業の内容の中には難しく複雑なものもありますが、先生が理解できるまでわかりやすく解説して下さいますし、何度も復習の機会があるので、英語史に挑戦してみたい学生におすすめのゼミです。

3年 八子 綾香

菊地ゼミでは、様々なコーパスを使い、単語や表現などの使用頻度・使用域・コロケーションを調べ、歴史的な視点から現代英語について深く学びました。英語に関する普段から疑問に思っていたことが解決した時の喜びや達成感は計り知れません。英語史はとても難しく感じるかもしれませんが、英語を学習する上で英語史を学ぶことは非常に重要なことだと思うので、菊地ゼミは英語を極めたい学生におすすめです。

3年 吉川 諒

菊地ゼミでは、古英語まで遡り現代英語がどのように形成されたのか、英語に起こった変化はどのような要因によって生じたのか等、英語の歴史について深く学んでいます。例えば、「goの過去形はなぜwentなのか」などの素朴な疑問は英語の歴史の観点から見ることによって答えが明らかになるということを学びました。私は特に、同じ意味を表す単語でも国や地域によって異なるという現象に関心を持ったので、歴史的な観点から研究をしていきたいと思っています。

3年 阿曾 拓未

菊地ゼミでは、英語の誕生の時から現代の英語になるまでに、どのような歴史的な出来事があり、どのような言語的变化が起こったかを詳しく学ぶことができます。中学生、高校生の時に感じた英単語等に対する素朴な疑問もこのゼミに入ることで解決できるかもし

れません。菊地先生も詳しく丁寧に教えてくださるので、英語史に少しでも関心がある学生におすすめのゼミです。

3年 伊集院 香鈴

菊地ゼミでは、英語史について教科書やコーパスを使って学びました。英語の歴史を遡り、各時代に起こった出来事や変化を深く掘り下げるだけでなく、様々な時代に書かれた聖書を題材に、現代の英語と昔の英語の比較をしながら、実際に英語に起こった変化を体感することができました。菊地先生もわかりやすく指導して下さったので理解しやすかったです。英語の歴史を深く学びたい学生にぴったりのゼミです。

3年 加藤 大智

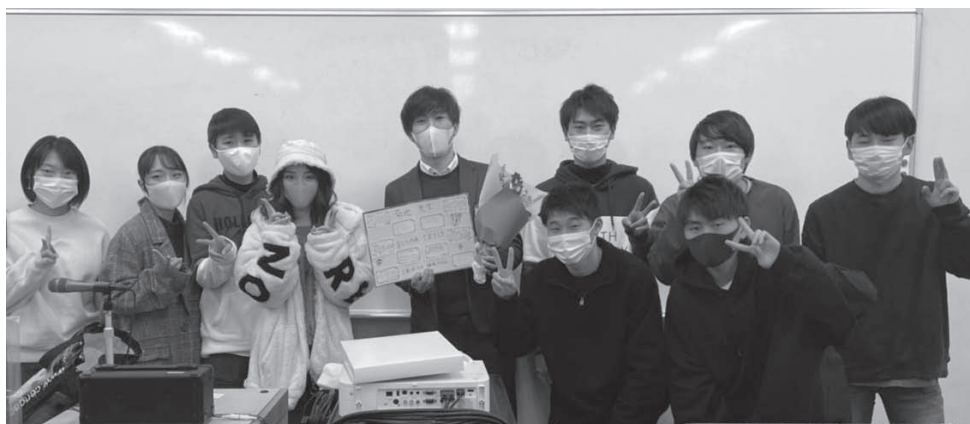
今までの英語学習の過程で、知らなくても試験に影響はでないが、先生に聞いても教えてくれない、教科書にも載っていない、そんな疑問を抱きすっきりしない思いをしたことはありませんか。そのような素朴な疑問を大切に、歴史的な視点から答えを追求していくのが菊地ゼミです。

3年 富永 瑠華

菊地ゼミでは英語史を学びました。コーパスなどのツールを使いながら、英語の歴史を主体的に深く学ぶ事ができました。菊地ゼミに入っていなかったら、得られなかったような新しい視点が身につきました。英語史を学ぶことで、英語を学ぶことがより一層楽しくなりました。

3年 村山 晃輔

菊地ゼミでは英語の歴史について学びます。中学生からの英語学習の過程で、「なぜそうなるのか」や「どのような背景があってそうなったのか」等、これまでに抱いてきた疑問を、歴史を通して理解することができます。明海大学では、英語史について深く学ぶことができる機会は限られていると思うので、英語の歴史に興味がある学生や、英語に対して多くの疑問を持っている学生にオススメのゼミです。



卒業研究

4年 玉置 鞠亜

英語史とコーパスの魅力に出会い、長い年月を経て形成されてきた、表面では見えない英語の奥の世界を探検することが今やとても楽しく夢中になっています。菊地ゼミでは、英語史と文学作品の研究を通じて、物事の外面と内面を分析する観点を養い、世の中の物事全般に通ずる探究心をさらに深めることができました。このゼミで学んだことを人生の大きな糧にし、これからも多様化する英語の行く末を注視しながら、多様な価値観や文化的背景を持つ英文学作品に触れていきたいと思います。

4年 山形 野乃

私は菊地ゼミに4年次から参加しました。まず私たちは卒業論文とはどのような形式のもので、どのように書いていくのかを教科書を使いながら学びました。レポートと論文の違いを意識することや、できる限り研究目的を狭く設定することが大切だと学びました。実際に論文を作成する際には、まず先行研究を探し、先生や他のゼミ生からアドバイスを得ながら読み進めました。ゼミ内では何度か発表の機会があり、お互いの進捗状況を確認したりアドバイスをしあったりして、高め合いながら書き進めることができました。異なる分野の論文を書く人が多かったので、刺激的で楽しいゼミ活動でした。

4年 山口 果恋

菊地ゼミは、毎回和気藹々とした雰囲気楽しく、とても有意義な2年間を過ごすことができました。卒業論文執筆の過程では、先生からのご指導だけでなく、学生同士の添削もあり、お互いにアドバイスをし合って満足のいく卒業論文を書き上げることができました。

4年 網 穂乃佳

私は4年生の時に菊地ゼミに入りました。ゼミでは主に卒業論文の書き方などを学びました。菊地先生のアドバイスはもちろんのこと、学生同士で卒業論文を見せ合うことから学びがあり、自分では気がつかなかった考え方などを知る事ができました。そのおかげでより良い卒業論文が仕上がり、最後まで楽しく他のゼミ生と授業に取り組みました。

4年 首藤 茉由

菊地ゼミはあまり縛られすぎず緩すぎず、学生が受けやすいゼミだと思います。2年間で一番印象に残っているのは、ゼミでの共同作業です。私自身、書き終えることが不安だっ

た卒業論文も、先生や他のゼミ生からのアドバイスを基に、完成させることができました。

4年 本間 大地

私は4年次から菊地ゼミに参加しました。4年生になれば卒業論文を書く必要があり、ゼミのほとんどがその準備に費やされます。おかげで論文の制作のスキルなど多くのことをこの1年で学ぶことができました。英語の語源や歴史を専門的に学びたい人でもそれ以外の人でも広く受け入れてくださるので、とても居心地の良いゼミだと思います。

4年 武井 勇樹

2年間菊地ゼミで学びました。菊地ゼミでは、1年目に英語の歴史について学習し、2年目から英語史の視点を取り入れながら卒業論文を書き始めました。2年間のゼミ活動を通じて英語史についての知識を深め、納得のいく卒業論文を書くことができました。菊地先生は学生1人1人に真剣に向き合い、それぞれの悩みを積極的に解決してくださる良い先生です。もしどのゼミに入るか迷っていたら菊地ゼミをお勧めします。

4年 岡本 真慧

私は菊地ゼミに4年生で合流しましたが、元からいたゼミ生が快く受け入れてくれたお陰で、この一年を不安なく過ごすことができました。このゼミはアットホームな雰囲気なので、ゼミ内で行われる卒業論文に関するフィードバックでは、様々な意見が飛び交いました。先生やゼミ生のみんなが的確で新たな視点のアドバイスをしてくれるので、私自身も視野が広がり、多くを学ぶことができました。菊地ゼミに入ることができて良かったです。



熊谷学而ゼミ

専門領域研究講座

3年 長嶋 南美

熊谷学而先生のゼミでは、さまざまなキャラクターや物、人の名前がどのようなルールで決められているのかを音象徴的観点から分析をします。今まで意識したことのないことを学べるので、少し苦戦もしましたが、とても勉強になりました。また、先生のゼミでは全員ゼミ論を書きます。テーマを自分で自由に決めることができますので、自分の好きなものや、身近なものについて研究することができます。私は悪役キャラクターと善役キャラクターの名前の特徴の違いについて分析をしました。論文作成は先生が一からやり方を教えてくださるので、音象徴のことだけでなく、論文作成のプロセスなども学ぶことができました。

3年 尾崎 真隠

私はこのゼミで音象徴の研究をしました。これまで学んだ音声学の内容から興味のある分野を選んだ結果、共鳴音や阻害音といった音が与える特定のイメージをテーマに選び、分析をしました。本格的に言語学の研究を行うのは初めてでしたが、最終的に仮説を支持する分析結果を出すことができました。普段触れることのない言語学の分野である音象徴についての知識を深めると同時に、様々な発見をすることができ貴重な経験をできたと思っています。

3年 佐久間 健祐

私は、NARUTOにおける有声阻害音と忍術の属性との関係を研究しました。NARUTOは他のアニメに比べて、ステータスとなるものが多く、その中から仮説を立てなければなりません。分析した当初から仮説が上手く通らず、その度にほかの説を考えなければならなかった上、Excelの入力などで大変苦戦しました。時間はかかりましたが、先生や周りの友人の力も借りて最終的には形あるものになりました。今年の自分のままでいたら、ここまで自分で何かを研究しようという意思は恐らく起こらなかったと思います。先生や友人への感謝の気持ちでいっぱいです。

3年 増田 梨緒奈

このゼミでは音声学や音象徴について研究します。音そのものにあるイメージやその音による傾向など、普段身の回りにある物の名前にはどういった共通点があるのかなど学んでいくと日常で様々な音象徴を見つけることができ、楽しく学ぶことができました。興味のあるものから音象徴的観点で研究をすることがこのゼミの魅力だと思います。

ゼミ論題目一覧

長嶋南美	スーパー戦隊シリーズの女性の名前における有声阻害音と両唇音
尾崎真隠	テイルズオブシリーズにおける阻害音と共鳴音
佐久間健祐	NARUTO における忍術と有声阻害音
増田梨緒奈	たばこの名前における両唇音



卒業研究

4年 中村 亮介

熊谷ゼミでは3年次から対面で自分の研究を発表し、先生、ゼミ生から意見を貰いながら、自分たちの研究を深めていきました。ほかのゼミ生がどんなことを研究しているのかがわかるので、常に刺激を受けながら自分の研究に取り組むことができました。4年次はコロナ禍でズームなどでの指導でしたが、先生、ゼミ生のアドバイスのおかげで研究を続けることができ、本当に良かったです。私は「サンリオ」と「たまごっち」について研究しましたが、音声学、音象徴を学ぶと様々なことが研究対象になります。この学問を2年間学ぶことが出来て本当に良かったです。

4年 平原 豪

日本で市販されている赤ちゃん用オムツの商品名「ムーニー」「マミーポコ」「メリーズ」などには [m, p] (両唇音) が多く含まれています。両唇音は「パパ、ママ」という単語や喃語に含まれるなど、赤ちゃんの獲得しやすい子音であるため、赤ちゃんを連想させるのではないかと考えられます。このように、ある特定の音もたらす意味やイメージ (音象徴) についても多く学びます。

卒業研究では、赤ちゃん用粉ミルクにおける両唇音の音象徴について研究しました。日本で市販されている赤ちゃん用粉ミルクの名前にも「ほほえみ」「ステップ」「ミルフィー」など、両唇音が多く含まれています。そこで、日本語母語話者に2つの架空の商品名を提示し、どちらがより赤ちゃん用粉ミルクの名前にふさわしいか選ばせる実験を行いました。その結果、赤ちゃん用粉ミルクの名前において、両唇音が含まれている名前がふさわしいことがわかりました。本実験の最終分析対象者の約67%が実在する赤ちゃん用粉ミルクの名前を1つも知らなかったにもかかわらず、両唇音を含む名前が多く選ばれたので「両唇音=赤ちゃん」という音象徴的つながりがあることが考えられます。

4年 鈴木 翔

このゼミに入った目的は、アメリカとイギリスにおける英語の発音の違いを学びたいという思いからでした。そこからまず1年間、発音の違いだけでなく、日常に溢れる「言葉」や「音」のルールや規則性を学び、自分の卒論のテーマを固めることができました。4年になってからは、コロナも相まって、新しいテーマやトピックを見つけることさえも難航を極めました。試行錯誤した結果、3年次のゼミ論を深掘りするという形になりました。このゼミでの2年間はとても貴重な時間でした。上記の通り、音や言葉の規則性や各国の発音の違いも学びました。それ以上に養われたものが、好奇心です。ゼミのない時間でもネットや動画、テレビなどを見ているとき、このゼミの軸「音声学」の枠を超え、子供のように新しい発見や物事、自分が知らないことに敏感になりました。興味をもち、自分で考える。一見当たり前で誰でもできているようですが、殆どのことをすぐに調べてしまう私だからこそ、このゼミを通して自分の知らない自分を理解できました。約2年間、ありがとうございました。

4年 坂入 雄一郎

日本語をはじめ、様々な言語を音の観点から研究でき、普段の生活の中でも気付くことが多く、とても面白くやりがいがあります。キャラクターや商品名、普段使っている言葉などに音象徴的意味があったりします。それらをさらに深く研究することで、物事を客観的に見ることができるようになると思います。

4年 青野 咲

熊谷ゼミでは、3年生から自ら研究テーマを見つけて、論文を書くことができました。毎時間、他の人の発表を聞き質問を即座に考えて質問するのですが、はじめは慣れず質問を考えることが一苦勞でしたが、授業の後半には質問したいことや、他人の研究を理解する力などが身についたと感じています。大学で始めて触れる音声学という学問でしたが、先生の手厚いサポートのおかげで、自分なりに理解をしながら卒業論文を書けたことがよかったです。また、音声学の面白さに気が付いたことも大学生活で得られた貴重な財産だと思います。

4年 渡辺 美帆

このゼミでは音声学と音韻論を扱います。音声学ではイギリス英語の特徴、及びアメリカ英語との違い、音韻論では「カンタム」より「ガンダム」の方が強そう、というような音と印象との繋がりなどを学びます。私はイギリス人歌手の楽曲を聴いている際、歌手がアメリカ英語の発音をしていることに気付きました。イギリス人歌手が歌うとアメリカ英語の発音に変化することは多くの人に共通する特徴だと示すため、多くの楽曲を聴いて研究しています。



卒業研究題目一覧

青野咲	英語の楽曲における母音の変化
坂入雄一郎	ゆるキャラの名前における有声阻害音の音象徴
平原豪	赤ちゃん用粉ミルクの名前と両唇音の音象徴
中村亮介	たまごっち・サンリオキャラクターにおける両唇音の音象徴
鈴木翔	共鳴音を含むオノマトペが与える影響について
渡辺美帆	イギリス出身の歌手の楽曲におけるアメリカ英語の発音
井上ゆうな	音楽による心境の変化
加部由希乃	赤ちゃんの発達と音楽
小池亜月	ソーシャル・ネットワークの関係性構築における紛争解決時のメッセージの特徴について-グループ・チャットからの事例分析-

小谷哲男ゼミ

専門領域研究講座

執筆者：出浦 鈴奈、籠瀬 彩、三瓶 海音、二渡 沙樹

小谷ゼミは、別名「グローバル課題研究ゼミ」と称し、国際情勢や国際関係に関する幅広いテーマを題材として理解を深めています。

授業内容

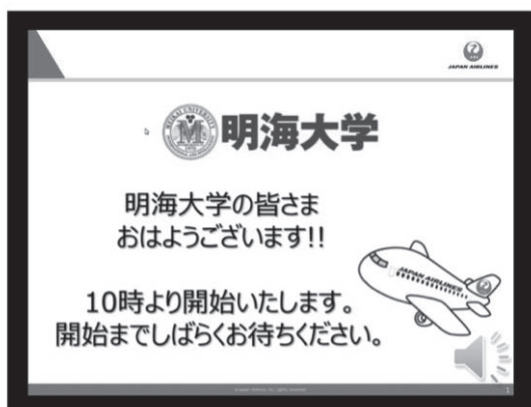
前学期の授業では、国際情勢に関する教科書を用いて、「そもそも国際情勢とは何なのか」という基本を理解することに努めました。後学期は、ゼミ生の大半が興味を示していた「航空産業」に関する教科書と、昨今新聞やテレビでもよく耳にし、多くの企業が取り組む「SDGs」に関する教科書を使いました。このように、小谷ゼミでは昨今話題になっていることや、社会人になるうえで知っておくべきこと、ゼミ生の興味があることを取り扱ってくれます。授業前の課題として、これらの教科書を章ごとに読んで要約し、自分の考えやコメントをレポートにまとめ、わからなかったことや気になったことを自力でさらに調べ、より理解を深めていきます。授業内では、毎週発表者が決まっているため、要約と自分の考え、さらに調べて知り得たことを発表したのち、他のゼミ生のレポートに目を通しての感想やコメント、そのゼミ生が調べたことに関しての質問などをしていきます。ゼミ生全員が同じ本を読んでいるのですが、人によって物事の着眼点が異なるため、自分だけでは知り得なかったこと、違った物事の見方に気づくことができます。このようにゼミ生全員で、互いに高めあっていくことができる環境が小谷ゼミにはあります。最終課題では、各自が関心をもったテーマを取り上げて1万字程度のレポートを書き、4年次の卒論の練習をしました。

小谷ゼミで学んだことは、インターンシップで役に立つことがありました。参加したインターンシップの中にはSDGsの話題が出てくることもありましたが、事前にSDGsがどんなものなのか学んでいたため、企業が行なっているSDGsについて理解しやすかったです。その結果、企業が行なっているSDGsの中でどれを優先するべきかというテーマでグループ・ディスカッション練習を行った際は、周りの人よりも説得力を持つことができたと感じました。

さらに、このような専門的な知識を身に付けるだけでなく、夏休みには英検準1級とTOEICの特訓を実施してくれました。

就職活動のサポート

小谷先生は勉強面だけではなく、個人面談を随時行って私たちゼミ生の就職活動も親身になって面倒を見てくださいます。今年はコロナウイルス感染拡大に伴い、ゼミで活動することができず、小谷ゼミで毎年行っている日本航空や川崎汽船での企業研修やゼミ合宿など課外授業を行えませんでした。課外活動ができない代わりに、今年は日本航空やLINE、川崎汽船、TBS テレビなど様々な企業からオンラインで大変貴重なお話を伺うことができました。参加者が小谷先生のゼミメンバーだけという特別感もあり、講義や質疑応答を通じて様々な情報を吸収することができました。普段なかなか接することのない海上輸送やニューヨークで活躍している方のお話を伺えたのは、それらの分野との関わりが強い小谷先生だからこそ可能だったと思います。コロナ禍という状況で就職活動を本格的に行っていかなければならない私たちにとって、上記のように企業の方と直接お話をさせていただける機会は本当に貴重でした。



※ゼミ生は9名 所属しています。

卒業研究

執筆者：塩谷 恵美、三上 伊緒莉、苔米地 郁穂、鈴木 千幸

小谷ゼミでは、国際情勢や国際関係に関する幅広いテーマを題材として、理解を深めています。

授業内容

前学期の授業では、教科書を読んでそれぞれ担当部分を発表し、内容について全員で議論することが主でした。まず、『人類と病』で感染症と国際政治の関わりを理解しました。次の『危機の20年』では、戦間期の理想主義と現実主義を分析して、国際問題を考える上で重要な国際政治学について学びました。そして、最後に近年注目度が高まるSDGsについて学び、コロナが流行する中でどのように行動するべきかを考えました。このように、重要な話題をピックアップして行われるため、今の世界をさらに深く学ぶことができます。また、日本についてもより理解できるため、就職活動や就職後にも役立つと確信しています。

後学期の授業では、卒業論文の作成を中心に行いました。3年生ではゼミレポートを書いて、卒業論文の準備を行いましたが、4年生になって授業で国際情勢や国際関係についてさらに学ぶ中で、深く理解したいことを卒業論文で取り上げました。卒業論文では、リサーチクエスチョンが一番重要ですが、先生と一緒に考えて、論文の構成を練っていきました。論文を執筆する過程では、何度も添削して一人一人にフィードバックをしてもらいなど、丁寧な指導を受けました。こうして、客観的思考力と論理的思考が鍛えられるだけでなく、Wordや正しい日本語の使い方なども学ぶことができました。ゼミの課題は簡単なものではありませんでしたが、小谷先生は常に社会人になってからも役立つ課題を出してくれました。

課外活動

今年はコロナのため、課外学習はオンラインで行いました。たとえば、TBSテレビの海外支局特派員の方に、Black Lives Matterについてオンライン講義をして頂きましたが、ジャーナリストや有色人種が危険な目に遭う可能性が高い状況で、実際に現場で取材をし、この運動に白人の学生など多くの若者が参加していることを実感されたそうです。この世代が大人になった時に、人種差別が緩和される可能性があることなど、現場にいないとわからないお話を聞くことができました。また記者として一番印象的だった取材内容や、女性選挙権獲得後、女性の大統領がまだ出てきてないことなど、様々な話題について質問す

ることができました。この他にも企業見学などを通じて、2年間のゼミ活動でたくさんの貴重なお話を聞くことができました。



就職活動

4年生になって1番不安なことは、就職活動だと思います。右も左も分からない状態で就職活動が始まり、私たち自身とても不安を感じました。しかし、不安な時に励まして適切なアドバイスをしてくれるなど、常に気にかけてくださったのは小谷先生でした。就職活動において、励ましてくれる人やアドバイスをくれる先生が身近にいることはとても励みになります。国際情勢に興味がある方や、ゼミを通していろいろな活動をしてみたい方にはとてもおすすめのゼミです。



嶋田珠巳ゼミ

専門領域研究講座



3年 一瀬 涼介

嶋田ゼミには、自分の興味や関心があることを突き詰められる環境があります。それは、自分が主体になって取り組む授業が多いからです。興味を持って取り組んだ内容は同じゼミ生の中で共有し、話し合い、必ず意見や感想を貰います。私は自分の考えや意見を人に伝えるのが苦手だったのですが、ゼミを通して習慣化され克服できました。

前学期の授業では、自分が興味を持った本を一つ選び、本の内容、本を読んだ上で考えたことをレジュメにまとめて発表します。ゼミ生は九人もいるので、新たな知識が得られ、自分とは違う視点から意見を貰うことでお互いに高め合うことができました。

後学期は、言語に関する論文を三つ読み、論文ごとにグループで分かれ発表しました。私のグループが担当したのは「日本語は国際語になりうるか」というものでした。著者は「日本人が日本語を捨てようとしている、部品交換型文明で成り立ってきた」と日本について考えています。日本人が本当に日本語を捨てようとしている根拠はあるのだろうか？仮にほとんどの日本人が日本語を捨てようと考えているならば、英語や他の言語を公用語にするような大きな動きがあったのではないかと考えたので、この点においては納得できませんでした。少しずつではありますが読んだものを鵜呑みにするのではなく疑う力も身につきました。

毎年嶋田先生は、議論型研究会という、二日間にわたり先生や学生を交えて研究したことを発表する会を開催しています。今回私たちは、ゼミ特別企画という形で参加しました。後学期の授業で扱った「変わりゆく方言の役割」という白岩論文をもとに考察しました。この論文は、標準語を意識するより方言を意識する時代に変化したことに着目し、方言が現代にどんな役割をはたしているのかについて述べています。文末表現として使われる標準語のノダの二つの用法を関西方言のネンと比較した箇所に注目しました。(1) 山田さんが来ないなあ。きっと用事があるんだ。という「対事的」な用法と(2) 僕、明日は来ないよ。用事があるんだ。という「対人的」な用法です。授業の議論を通してゼミ生の出身地が

異なっていたことがわかり、自分たちの出身地の方言ではどうなるのか調査して発表しました。そこで私が面白いと感じたのは東北、北関東に共通して文末表現に“だべ”がよく使われていたことです。共通している理由として東北、北関東の方言の派生系が同じなのではないかと考察しました。派生系統をたどることができれば共通している理由が明らかになり面白い発見ができるのではないのでしょうか。またこの“だべ”は対事的に使用され、対人的には使用されないことも分かりました。

UNK	大阪	あんの	x	x
HRS	広島	あるんじや	o	o
HRS	広島	あるんじや	x	o
HRS	広島	あるんよ	x	o

データから読み取れること (調査書)
 ・大阪のネンは対人的用法に限られている。これと対照的に富山方言のガヤは対人的用法に限られている。
 ・ガは対
 ・地方によって対事的か対人的でどちらが得意か
 ・会話し言葉で対事的用法で

4. ノダ以外の表現で気づいたこと
 ↓ 茨城の方言には「さじゃっべいいかん」、「～する～すっべ」という表現が存在する。茨城の方言では語尾に「べ」を使う特徴がある。
 ・清水「～だから～でもんで」、「大まかい=いかい」、「見えない=めえない」標準語の原形があまりない。静岡のオリジナルの訛り。
 ・千葉(柏)「だべ～だよな」となり「だべ」単体で使うときは「やっぱりそうしょ」「言ったでしょ」といった使いみ
 ↓ 山形方言は4つの地域によって使い方や語尾が

写真：授業はオンライン。画面上みんなで発見を書き込む

議論型研究会に二日間参加して印象に残っていることは、発表者が自分の研究発表を楽しそうに話していたことです。それだけ夢になれる研究テーマを探し、突き詰めたからこそできることだと私は思いました。私も夢になれる研究テーマを探し、来年は周りにいい影響を与えられる発表がしたいです。

この一年を通して私は嶋田ゼミに入って良かったと感じています。嶋田先生は学生の将来のことや、学生の関心があることについて親身に話を聞いて下さいます。コロナ禍で気分が後ろ向きになっていた時、素敵なアドバイスを沢山いただき前向きな気持ちになることができました。またゼミの仲間はみんな優しく、そして向上心にあふれた素敵な人ばかりです。常にみんなからいい刺激を貰っています。そんな環境に身を置けたことはとても



写真：オンライン開催の議論型研究会。最後に記念写真

幸せなことだと思います。私には英語圏に留学したいという夢があります。四年生では、その夢が具体的に叶えられるようにしたいです。もう一つの目標として、自分らしさを表現する文章力を身につけることです。

最後になりましたが、自分の興味のあることを突き詰めたい人、仲間と意見を共有するのが好きな人、嶋田ゼミで自分の可能性を広げてみませんか。

卒業研究

4年 鈴木 晴貴

4年になって仲間が増え、同時にコロナが拡大しオンライン授業がメインとなった。卒論を作るにあたって私自身、初めは何をテーマにするかという時点で躓いていた。しかし先生から文献を紹介してもらったりアドバイスをいただき、私は私自身の良さや興味を持った事を書けばいいのだと気づき「気遣い」「配慮」というテーマに絞ることができた。諦めが早いタイプの私はテーマで悩んでいる時点でもうダメかと思っていたが止めずに継続した事で未熟ながらも書き切る事ができたという達成感、そして自分をテーマに照らし合わせて作成したことで何より自身を見つめ直し成長する機会に繋がった。

4年 香村 柁紘

私は4年から嶋田ゼミに入りました。4年生では卒業論文があるので、自分たちでテーマを考え、書くこととなります。テーマは「言語」に関することなら何でもいいとのことで、テーマがなかなか決まらなくても、嶋田先生がサポートをして下さるので安心です。私は、ニュースでアメリカでの差別について話題になっていたのので、差別語に関することをテーマに決めました。卒論を実際を書くことは初めてで、書き方も分からず、資料探しも大変でしたが先生にアドバイスをもらいつつ、同じゼミ生のも参考にしながら無事に書き終えることが出来ました。また、議論型研究会というものがあり、他の学生や先生の研究発表を聞くことが出来るイベントもあり、自分では考えなかったことなど、話を多く聞けるのでとても良い経験になりました。嶋田ゼミに入ることになったらぜひ参加してみてください。

4年 福本 智也

私は「リーダーの言葉—どういう言葉で人は動くのか」をテーマに卒業論文を書きました。このテーマを調べる程、とても奥が深く面白いと感じました。日常の中でも、人が発する言葉に対して意識するようになり、どういう言葉で自分はその人について行くか、惹かれるかなどを考えるようになりました。その結果、自分が発する言葉も意識するようになりました。アルバイトの時にはこの卒業研究で学んだ事を生かした結果、少しずつ店のアルバイトの人達を自分の言葉によって動かせる事が出来てきたと実感することが増えました。友人と会話する時も学んだ事を生かしたことによってさらに関係が良くなったと感じます。それらのことによって自分自身とても成長できたなど感じました。議論型研究会で発表する機会を貰い、初めて自分で研究したものを人に聞いてもらいました。人に聞いてもらうものなのでしっかりとした研究内容を完成しなくてはならないというプレッシャーを感じることもあり苦労する事もありました。しかし、発表が終わった後、色んな意見や拍手をしてもらって最後までやり遂げて良かったなど感じました。自分の研究した内容はこれから社会人になり、就職した時にとても役に立つと思うので、とても為になる経験でした。

4年 嶺村 侑輝

卒業論文では苦労ばかりでした。テーマ決めでその時の興味をそのまま伝えたら嶋田先生にお叱りを受け、そこで初めて真剣に何をテーマにするか考えました。そこからテーマ決め・資料集め・考察まで全てに難航してとても時間がかかり、最終的に完成した時はかなりギリギリのタイミングでした。何度も指導していただいてどうにか完成した訳ですが、今終わってから考えてみると確かに大変な作業だし簡単ではないのですが、苦労した1番の要因はやる気が起きずにいた時期にダラダラやっていた事だったと思います。改めて集中することの大切さを痛感しました。終盤はそれまでのだらけた皺寄せが一気にきて辛かったですが、研究発表の場で発表した後は不思議と達成感が湧いてきました。それまでの辛さが報われた気がして頑張っていた良かったと思うことができました。



4年 中山 祐希

自分の頭の中にだけしか存在しない事を言葉にする。言葉に出来ない事を言葉にする。自分の考えを、読み手に伝わりやすいように論じる。何もない所から、新しい何かを生み出して、時間をかけて、丁寧に、目に見えるように一つの形にする。何から何まで、初めての事ばかりで、本当に大変でしたが、どんな時でも「楽しい」という気持ちが傍にありました。何度も失敗をして、何度も修正を重ねて、やっと自分の納得のいくものが完成できたかなと思いきや、一旦冷静になって読み返すと、まだ納得のいくものには程遠くて、そういう時間を何度も経験しました。「誰かの真似はしたくない」、「自分にしかできないものを自分の手で最後までやり遂げたい」、そう心に決めて、自分が納得のいくまで、やり遂げることができました。ここまで続けられたのは、自分が本当に成し遂げたい事であったからだと思います。こだわりが強ければ強いほど、時間と労力がかかるけれど、頑張れば頑張った分だけ良いものが作れて、喜びも大きくなるということも分かりました。誰も考えつかないことを自分自身の力だけで考え、まだ誰もやっていないことを、誰よりも先に実行し、ひとつのかたちにすることができて、とても幸せです。4年間で学んだことも勿論ですが、議論型研究会では、これから先の人生で恐らく触れることが難しいであろう分野の学問にも触れることができ、本当にいい経験を沢山させていただきました。ここで学んだことや、自分の頑張った事は、今後の人生に必ず生きてくると思います。これから先もずっと、自分を信じて、新しいことに、どんどん挑戦し続けていきたいと思っています。

高田智子ゼミ

卒業研究

4年 林 竜乃介

高田智子ゼミの卒業研究では、言語の形式が場面や状況によってどのような意味をもつかについて研究してきました。専門領域研究講座の頃から勉強していた、言語の形式（form）、意味（meaning）、使い方（use）の関係を、実際に英語が使われている場面を観察し、考察しました。そして卒業レポートでは叙想法（仮定法）をテーマに選びました。私が読んだ文献では「仮定法」という用語を使わず、これを「叙想法」といいます。それは、仮定法は必ずしも仮定を表すのではなく、さまざまな言語機能があるからです。そこで卒業レポートでは、中学、高校での英語の授業において、叙想法の形式（form）、意味（meaning）、使い方（use）をバランスよく取り入れていくことが大切であることも提案しました。

授業は、映画『ローマの休日』を鑑賞することから始まりました。ある国の王女がヨーロッパ親善旅行の最中、こっそり抜け出してローマでの一日を自由に楽しむという、オードリー・ヘップバーン主演の映画です。これを鑑賞するにあたって、登場人物の表情や声色にも注目し、使われているセリフ、文法、単語のイメージがどのようなものになっているかを考えていきました。その中で叙想法（仮定法）はこれまで想像し得なかった意外な使われ方の例がたくさん存在していたので、卒業研究のテーマに選びました。卒業研究を進めるにあたって、高田先生から様々な文献を紹介していただいたり、一緒に考え、意見をもらったりすることによって、助けられた場面がたくさんありました。また、先生から高校の英語検定教科書をお借りし、叙想法の練習問題が実際の使われ方を反映しているかどうかを検討して、練習問題の改訂案を提案し、授業の進め方も考えることができました。

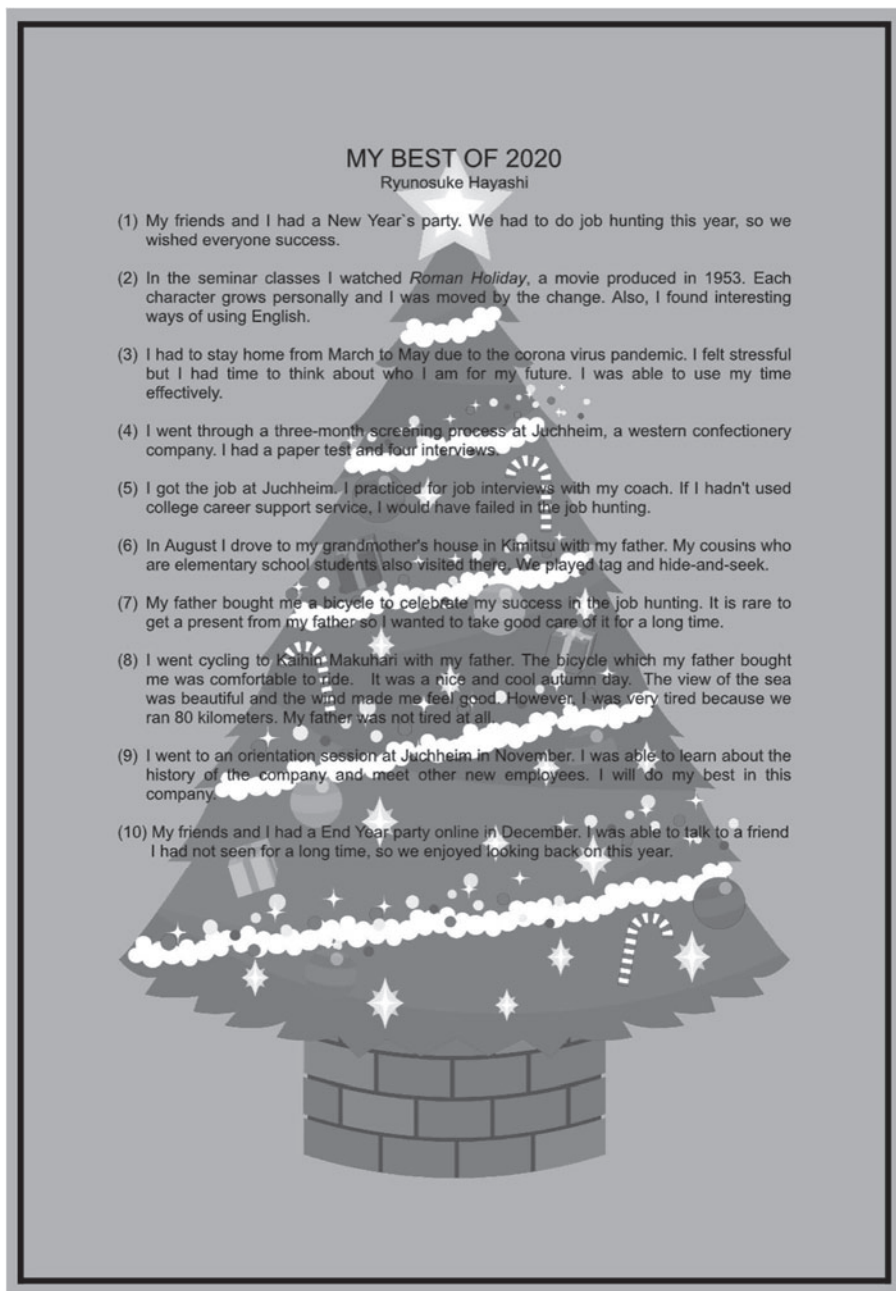
高田智子ゼミでは毎年12月、その年に印象に残った出来事を10個選び、英語でリストにします。昨年の専門領域研究講座から引き続き、今年も作成しました。実際に英語を使っ



て文章力を鍛えることも大きなポイントなのですが、リストにまとめることによって、今年起こったこと、成し遂げたことを書き上げ、一年間を楽しく振り返ることができます。右のページが2020年の私のトップ10リストです。

「専門領域研究講座」から「卒業研究」を通して、映画を鑑賞しながら英語を学習することがたいへん楽しく、充実した時間を過ごしました。

また、高田先生がいろいろな参考になる文献を持っていらしたため、レポート作成にかなり助けになりました。そして、添削や様々な意見などたくさんのサポートをしていただいたことも、とても感謝しております。「専門領域研究講座」から「卒業研究」は、大学の授業の中で一番楽しく、有意義に感じながら取り組むことができました。



津留崎毅ゼミ

専門領域研究講座

3年 小野 朱里

今年度の津留崎ゼミは、「人称代名詞と照応」をテーマに、前学期には著名な言語学書 *The Cambridge Grammar of the English Language* (CGEL) の Chapter17 ‘Deixis and anaphora’ を選択的に読み、後学期には前期に学んだ内容をベースに「バック・ピーターズ文の謎」の解明に取り組みました。

前学期の最初の3回の授業は、コロナウイルスの影響で、Zoomを使用したオンライン方式で授業を行いました。初めてのゼミと初めてのオンライン、さらに初めて読むCGELのアカデミックな英文に戸惑いも多かったですが、先生作成のハンドアウトや補足プリントのおかげで、照応表現や直示表現、先行詞と照応表現の関係など、後学期に行うバック・ピーターズ文の分析の基礎となることをしっかり学ぶことができました。また、CGELの割り当てられたトピックについて自分でハンドアウトを作成し、発表を行いました。



夏休みには、鈴木孝夫著『ことばと文化』を読み、ブックレポートを提出する課題が出ました。この本は言語と文化に関する入門書のようなものであり、学期末に提出するゼミ論の助けとなりました。

後学期には、配付していただいた様々な資料を使いながら、バック・ピーターズ文の謎の解明に取り組みました。謎の分析と解明は、単純なものではありませんでしたが、この一年間で学んだことを照らし合わせるにより、最終的には理解できたように思います。

このゼミでは、今まで見たことも聞いたこともない専門用語が多く取り上げられましたが、それらの用語と格闘することにより、自分の知識として理解することができました。今年度は、一時オンラインによる授業という変則的な一年でしたが、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。このゼミを受けることができてよかったです。

卒業研究

4年 藤田 祐也

津留崎ゼミ（「卒業研究」）では、3年次までの学修や研究の成果を踏まえ、「ことば」に関する調査・研究のテーマを設定し、客観的な視点でデータ分析を行い、卒業論文もしくは、卒業レポートに取り組みました。

いきなり、卒業論文・卒業レポートを書きなさいと言われても、何をどんな風に書けば

いいのか、最初に何から手を付けていけばいいのか私はわからず戸惑いました。しかし、この津留崎ゼミではそんな心配は一切ありません。講義の中で津留崎先生が一から卒業論文・卒業レポートのいろはを教えてくださいます。講義は田中典子著『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』に沿って講義が進んでいきます。この一冊の本の中に、どんな方法でリサーチをすれば良いのか、なぜ先行研究を調べるのか、アンケートやロールプレイング、インタビューの仕方、参考文献の書き方など、論文やレポートの執筆についての必須要素が詰め込まれています。そして、自分の興味関心のあることについて、執筆を進めていきます。興味関心のあることといっても津留崎ゼミでは「ことば」についての研究が必須条件でした。「ことば」についてと言われても何を書いていいか悩んでしまうと思いますが、その都度、津留崎先生が「こんなのはどう？」と一人一人の興味関心に合ったハンドアウトを配ってくださり、そこから自分の身近なものやこれまで大学の講義やゼミで学んだ事を基にして、みんな最後には、自分の個性に合った論文やレポートを完成させることができました。

私の場合、「英語学概論 b」の講義の中で、語用論上の重要な概念である「協調の原則」(Cooperative Principle, CP)と「行動指針」(maxims)について学ぶ機会があり、また、「異文化コミュニケーション概論 a」の講義の中で、「高コンテキスト文化」と「低コンテキスト文化」という分類が提案されていることを学ぶ機会がありました。そこで、4年次のこの卒業研究では、これらの概念を基に、高コンテキスト文化と低コンテキスト文化を比較しながら、「量の行動指針と情報量の研究」に取り組むことにしました。

卒業論文の執筆を進める上で一番苦労したことは、テーマを決めることとインフォーマント（調査対象となる人々）を確保することでした。私には複数の研究テーマの候補があり、秋頃まで決まらず、焦っていましたが、津留崎先生のアドバイスのおかげで、1つに絞ることができ、その後も先生から沢山のアドバイスを頂いたおかげでスムーズに執筆を進めることができました。私の研究の場合、インフォーマントは、日本人以外の人々も必要になるにもかかわらず、私には数人しか日本人以外の知り合いがいないため、必要な人数を確保できるかどうかとても心配でしたが、本学の日本語を母語としない先生方に協力していただいたり、友人の助けを借りたりして何とかデータを収集し、卒業論文を完成させることができました。論文の執筆を通して、改めて「学問って面白いな」、「研究・調査し、分析することってこんなに楽しいものなのか」などと感じました。

私は、明海大学に入学できたこと、そして津留崎先生に出会い、沢山の事を学べたこと、「学問」ができたことを本当に幸せに思います。先生から学んだ「追求・分析することの面白さ」、「一人一人に合ったサポートの仕方」を、これからの人生で役立てていきたいと思っています。津留崎先生、本当にありがとうございました。

ケイコ・ナカムラゼミ

専門領域研究講座

This seminar explores the psychology of language as it related to learning, mind, and brain, as well as to society and culture. It is a *zemi* of exploration and questioning, with discussions and presentations. We constantly asked questions, discussed many issues, and gathered video clips on animals, children, and adults to explore the mysteries of language, communication, and psychology.

In the first part of the course, each student selected an animal (e.g., cats, dogs, horses) to research and examine whether their animal was able to “communicate” and/or “use language” using videos and photos of their own pets and from YouTube. In the second section, we explored first language acquisition, studying the stages of child language development. Next, we looked at second and foreign language acquisition, considering different patterns of language learning and teaching methods (e.g., grammar-translation, communication-based teaching), sharing our experiences learning English, as well as other foreign languages.

During the second semester, we focused on many topics in psychology, by reading *40 Studies that Changed Psychology* (2015). Each student selected a chapter (topic) to read and present to the class. As all of the studies were classic or state-of-the-art studies from different fields in psychology, enabling us to learn about a wide variety of topics, ranging from behavioral psychology (e.g., conditioning/ learning) and cognitive psychology (e.g., cognitive maps, intelligence, expectations) to motivation/emotion and developmental psychology (e.g., moral development).

Here are the results of a Google Forms questionnaire administered to the class. The first question was: *What topics did you enjoy?* The result was a three-place tie!

- *Animal Communication*: Is language unique to humans? Can animals use language?
- *Language Acquisition*: How do children learn their first language? How do we learn to speak and listen? How do we learn to read and write? How do people learn another language?
- *Psychology*: Various topics including developmental, cognitive, and social psychology.

When asked, *What did you learn this year?* & *What did you enjoy the most?*, students replied:

- How children acquire language skills & how many animals have great communication skills.
- How various psychological phenomena are occurring in our lives.
- I've never thought of animal communication but it was really interesting that some kinds of animals are able to understand lots of vocabulary like Coco, who behaved like a human.

- I enjoyed everyone's presentations from *40 Studies that Changed Psychology*. Especially, I was interested in "To help or not to help." I could learn that people usually have less responsibility when they are in a group. Based on this, I learned why people lose their sense of responsibility.
- What I enjoyed the most was the day we talked about the Skinner box. I don't know if "enjoy" is an appropriate word. But honestly, I was really shocked because babies were raised in the boxes and they were popular at the time.
- 声を使う、動作や合図を使う、動物によってコミュニケーションの仕方が違うことなど、知らなかったことを毎回楽しく学びました。

Some students commented that they also enjoyed doing presentations and discussions in class:

- I learned not only about psychology but also about how to do presentations.
- I learned through presentations in front of everyone and videos related to psychology.
- I enjoyed talking about some topics with my classmates. Sometimes I had different ideas from them. So, it was good to share ideas with them.
- I enjoyed learning about the topics I chose. The articles were difficult because there were technical terms, but I enjoyed reading them and giving presentations.
- 最後のみんなのプレゼンを聞くのが楽しかったです。内容も深くて知識が豊かになった気がしました。先輩の卒論を見せていただいたことも貴重でためになりました。



卒業研究

This 2020-2021 academic year was an incredibly challenging one, with the Covid-19 pandemic. As a result, our zemi started the academic year remotely, but luckily we were able to have face-to-face classes from July. I am very proud of this class of 4th-year students who adapted to the rapid changes caused by the Coronavirus and was amazed by their resilience in job-hunting and making life decisions in a very unstable time. Normally fourth-year students travel and relax during their senior year, but this year was certainly very different.

We were fortunate to be able to meet in person from the summer and I think students provided support for each other in many ways- not just academically, but also as friends. Of course, it was frustrating to be working in the PC room on the 6th floor with our computers all wrapped up in plastic, and the keyboard being so slippery! Hopefully we will be able to laugh about this many years in the future, perhaps at a Meikai Reunion.

4年 川邊 由香

ケイコ・ナカムラゼミでは、主に言語心理学を学びます。三年次では、アニマルコミュニケーション、母語の習得、バイリンガリズムや言語と文化のつながりについて学びました。それを踏まえて、私はアメリカのコメディ映画のタイトルにおける日本語と英語の言語的感覚の違いについて論文を書きました。海外映画が日本で公開される際、英語の原題とは異なった日本語タイトルに変更されることが多々あります。なぜ、英題の直訳ではなく、改変されてしまうのかという疑問を持ち、原題の英語タイトルと日本語タイトルを比べ、分析、研究をしました。卒業研究は個人での作業になるので、テーマを何にするか、どう研究するか、どう書くかなど悩むことも多くありました。しかしケイコ・ナカムラゼミでは学生と先生の距離がとても近く、助言を仰ぎやすい環境だったので、研究が行き詰るときにはアドバイスをいただいて、卒業論文を書き上げることができました。そんなナカムラゼミで二年間勉強ができて、とても楽しかったです。



4年 白井 萌

What do you think of when you hear the term “senior thesis”? At first, I thought it was like reading a very difficult treatise and doing original research that no one else could think of. I was originally in another seminar and was also in the teacher training course. So, I thought that research was about education and children's literature. When Kei asked me what I was most

interested in, I thought about human life. What do people think about when faced with death, and is death important to humans in the first place? When I decided to write on this topic, I thought she would be against it, but she told me that it was important to focus on what I was interested in. Of course, it is important to write about what you have learned in your four years of college life, but I think it is good to write about what you are interested in. Now let's ask those of you who are reading this journal. What is your favorite topic? What are you interested in? I think that you can work on your thesis by first thinking about what you like, rather than feeling that writing a thesis is too difficult. I only have one piece of advice: if you are doing a survey, I recommend that you start it early!

I was very happy to participate in this seminar over the last year. It was difficult for me to prepare for the teacher certification exam, but every day was fulfilling. I'm really thankful!

4年 田中 虎丸

私はゼミでの活動を通じて、自由な探求にこそ真の学びがあるということを知りました。今までの私の人生では、一定の与えられた学びに対して自らの能力を発揮することが求められてきました。しかし、私はゼミでの活動を通じて自分自身の興味・関心と向き合う楽しさを新たに知ることができました。特に卒業研究では、自分の中から生み出したアイデアを具現化することができ、その過程で自分の新たな可能性や能力、価値観について知ることができました。自由である反面、時に研究が上手くいかず苦悩した日々もありました。しかし、周りの仲間や先生の支えによってその壁を打ち破ることができました。この経験から、改めて私の学びは多くの人の支えによって成り立っていることを実感しました。このようにとても密度の濃い時間をこのゼミで過ごす中で、本当に多くのことを学び、体験し、身につけることができました。私はこの2年間がこの先の人生をより豊かにしてくれると確信しています。



濱田彰ゼミ

ゼミの概要

2020年度の濱田ゼミでは、「効果的な英語学習法の探求」をテーマに、第二言語習得や英語教育に関わる調査・実験・実践の方法を学びました。第二言語習得のしくみや心のはたらきを知るためには研究法を学ぶ必要があります。「英語は早くから学び始めた方がよい」などの言説が信頼できる知見なのかを批判的に検討することで、確かな根拠と俗説とを見分ける目を養いました。研究法を学ぶ過程で受講生の興味に応じたミニリサーチを行い、卒業研究に向けてデータの分析方法と論文の書き方も学びました。ミニリサーチのテーマを2ページ目に記載します。

ゼミで目指していること

第二言語習得研究は、第二言語が習得されるのはどのような心のメカニズムによるのかを明らかにする学問分野です。このゼミでは心理学的な実験をしたり、授業中の児童・生徒の学習を観察したりして、第二言語習得論にもとづく「効果的な英語学習法は何か」を追求しています。疑問に思ったことを解決するために調査をして、集めたデータを分析し、だれにでも分かるように結果を報告することは、英語教師を目指すだけでなく、広く社会で活躍できる人材にとって必要な能力です。専門領域研究講座での経験を通して、英語教師や社会人として成長し続けられるリテラシーを身につけることが私のゼミでの目標です。

2020年度の成果

今年度の前学期は、ゼミ生がグループになって、それぞれの興味関心に応じた専門書を日本語・英語で読みました。4つのグループが以下のテーマで本を2冊、論文を3本読んでいます。読んだ内容はGoogle Documentsで共有し、各々の研究テーマへと昇華させていきました。

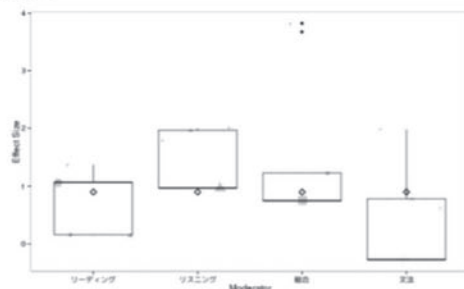
- Instructed Second Language Acquisition
- Motivation and Second Language Learning
- Second Language Reading and Vocabulary Acquisition
- Second Language Pronunciation and Speaking Performance

後学期は、単独・共同研究の形式で、2ページ目に挙げた研究テーマを実際に進めました。過去の文献を系統的に統合するメタ分析にチャレンジしたグループもあれば、アンケート調査や実験をして結果を分析しているグループもありました。まだまだ研究途上ですが、1つだけ進捗状況を紹介します。

☑ テーマ：留学による英語力の向上

☑ 方法：留学経験ありの学生と経験なしの学生の成績を比較した過去の研究結果を統計的に統合するメタ分析を行なった。

☑ 結果：右図の通り、留学するとリスニング力が最も向上し、それと比べて、リーディングや文法力はあまり向上しないことを明らかにした。



ミニリサーチのテーマ一覧

2020年度専門領域研究講座
2021年1月19日 (Tue)

有効かつ効率的な英単語学習

英単語学習を継続するために

嶋田宗晋
明海大学外国語学部英米語学科
s12181063@meikai.ac.jp

1

直訳と意識 理解度の違い

藤原 智彦
明海大学外国語学部英米語学科三年
s12181107@meikai.ac.jp

学習マンガの効果について

江川 有紗
明海大学 外国語学部 英米語学科
s12181019@meikai.ac.jp

2020年度専門領域研究講座
2021年1月19日 (Tue)

映画から学ぶ人の理解度分析

英語を楽しく学ぶために

伊藤穂乃花 安田麗奈
明海大学 (外国語学部 英米語学科)

ts12181040@meikai.ac.jp
ts12181041@meikai.ac.jp

1



海外留学することの 教育効果

五十嵐彩香 栗野日菜
明海大学 外国語学部 英米語学科

英語習得における必要な要素 とベストな順序とはなにか

12181049 小池菜月

2020年度専門領域研究講座
2021年1月19日 (Tue)

留学期間の長さ と英語力の向上

Meta-analysisによる研究

辻 慎太郎
明海大学 外国語学部 英米語学科
ts.1212tarou@gmail.com

1

2020年度専門領域研究講座
2021年11月12日 (Tue)

TOEICとボキャブラリーの相関関係

ボキャブラリーが増えることによってTOEICのスコアにどのような変化がでるか？

斉藤 晴人
明海大学外国語学部英米語学科
Harukichi.0314@ezweb.ne.jp

1

2020年度専門領域研究講座
2021年1月19日 (Tue)

大学生の学習意欲また効果的 な英単語の暗記法と成績向上 の関連性について

明海大学外国語学部英米語学科
鈴木カレン、藤村愛優

英語学習における 日本と韓国の動機付けの比較

12181119 森山樹・12181032 神田英規

前田隆子ゼミ

専門領域研究講座

3年 中島 悠

前田ゼミでは、協同学習に関する様々な文献を読んだり、協同・協働の手法を具体的に経験することで、「学び合い、支え合い、高め合う協同学習」が成立する条件を考察しています。私がこのゼミを志望した理由は、協同・協働のスキルは一生必要であるにも関わらず、今まで具体的に学んでこなかったもので、社会人になる前に身につけたいと思ったからです。

楽しみにしていたゼミですが、残念ながら2020年度の当初は新型コロナウイルスの蔓延で、ゼミの仲間に会うことは叶わず、Zoomでの授業でした。先生もお困りだったようで、協同学習の技法を学ぶのは後学期からとなり、前学期は文献講読が中心となりました。そんな中、先生の提案で、みんなで俳句を詠んでみようということになりました。お題は3つあり、①コロナ、②協同学習、③自由（季語あり）でした。私は、テレビで『プレバト!!』を毎週見っていますが、端から見ると簡単そうに見える俳句でもいざ自分が詠んでみると難しく、勉強してまた詠んでみたいと思いました。今回は、各自俳句を付けたので、誰が詠んだかはわかりませんでした。ユニークな俳句が集まりました。印象に残った俳句は以下の通りです。

① コロナ

自粛中 思いで増えず 增量中／コロナ様 お願いだから 自粛しろ／

② 協同学習

各々で 集まることで 倍のオ／ひとりより 高め合うこと 成長なり／

③ 自由（季語あり）

ポツポツと すべて憂鬱 カエルなく／夏祭り 妄想だけで 夏終わり

後学期からは、ゼミは対面授業となりました。みんなに会えるのはうれしかったのですが、密を避ける必要があり、協同学習にとってはこれがかなりやっかかったです。それでもマスクを付け、距離を保ちながらグループ討議や、協同学習の技法である The Jigsaw Method、Think-Pair-Share、Three Step Interviewなどを体験しながら学びました。協同学習にはたくさんの手法があって、今までグループ学習を行う際には意識できていませんでしたが、ゼミで多様な手法を学び、やり方によっていろいろな効果があることがわかりました。

さらに後学期は協同学習や協働に関する論文を読むことで、次年度からの卒業研究の準備も始まりました。ゼミの最後には各自が卒業研究につながるようなテーマでレ

ポートを執筆しました。

後学期に経験して楽しかったのは、「ワールド・カフェ」と呼ばれるリラックスした雰囲気の中で行なわれる議論への参加です。4チームに分かれたホームグループでそれぞれテーマを出し、それに関して議論が進むように内容をプレゼンし、その後第1ラウンドとして小グループ（4人）で10分話し合い、その後自由に移動して第2ラウンドとして10分話し合い、それを第3ラウンドまで行ないます。ワールド・カフェでは少人数で対話するので、相手の意見は聞きやすく、自分の意見も言いやすいのが特徴です。その議論のテーマには、「フード・ロスを考える」、「AIに支配されないために私たちはどうしたらよいか」、「海洋汚染対策」、「夫婦別姓を考える」などあり、私自身も考えを深める良い機会となりました。

前田ゼミでの1年を通して、協同学習についての本を読んだり、ゼミ内でいくつかの協同学習を体験して、今まで小中高で行なってきたただのグループ学習ではない協同学習について深く学び、新たな発見もしました。来年度もさらなる技法や役割を学び、社会人になっても活用できるようにしたいと思います。

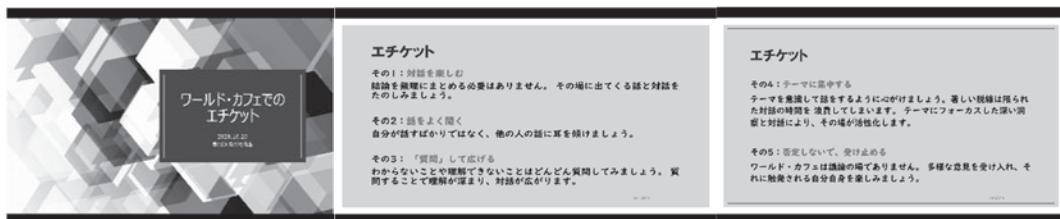


写真1：ワールド・カフェでのエチケット



写真2：“Cooperation matters!（協力は大切！）”の標語の前で。

松井順子ゼミ

専門領域研究講座



王 熙 Xi I was happy to spend a good year with my teacher. My listening and reading skills have greatly improved. I hope to continue to learn more during my last year before graduation.

三浦 歩美 Ayumi

伊藤 新菜 Niina: This seminar is small, but everyone is good friends. Ms. Matsui is kinder than anyone else.

中島 裕人 Yuto: This class does not use Japanese. Spend a fulfilling 90 minutes with us where we study English seriously. I'm sure it will be the best memory of the year.

矢吹 駿介 Shunsuke: You will become good at listening and acquire fluent English pronunciation in this seminar.

吉澤 梨央 Rio: We have a class where we translate textbooks and the speeches of our partners. At first, I found it difficult, but after a number of times, I was able to translate it in a short time. Let's all study interpretation together in this seminar.

(In order of year and Japanese alphabet 学年・五十音順)

卒業研究



Congratulations on your commencement! Wishing you every success, blessing, and happiness!



金子義隆ゼミ

専門領域研究講座

3年 山口 直樹

金子ゼミでは、現代の英語教育やアクティブラーニングについて学び、研究しています。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、大学での講義は後学期のみとなっ
てしまいましたが、英語のスキルアップができるような授業を行っています。前学期
の manaba での課題では、英語での自己紹介をはじめ、英語検定準 1 級レベルや、TOEFL
で実際に使われたスピーキング問題を扱ってきました。後学期の対面授業では、英検
準 1 級レベルの単語帳を使って単語テストを行い、身に付けた単語力などを生かして
スピーキングの練習をしました。他にも、最近よく耳にする Sustainable Development
Goals (SDGs) という世界をよりよくするための世界中で決められた課題を取り上げ、
それぞれが興味のある課題についてプレゼンテーションをしました。授業内でプレゼ
ンテーションをする機会が 3 回あり、毎回先生からのフィードバックや自分での反省
点を次回のプレゼンをする授業に生かせるのでプレゼン力の大きなスキルアップにつ
ながることができます。プレゼン力は卒業後も身に付けておいて損はないものなので
とても勉強になりました。また、現代の英語教育の研究という点では、小、中、高校で
私たちが受けてきた授業を振り返りながら、これからの英語教育について学んでいま
す。このように言うのととても難しいものに聞こえますが、わからない点はその場で質
問しながら授業を進めてくれるので心配なく授業を受けることができます。教育に関
する授業をしていることもあり、現在教職課程を履修している学生にもおすすめです。
3 年の金子ゼミ生は 2 人のみでしたが、人数が少ないからこそ気軽に授業中に質問が
できたり、ゼミ生同士でお互いに助け合うことができ、楽しく活動できています。

3年 田中 友基

金子先生のゼミで今は 2 人で受けています。英単語のテストを定期的にしたり、そ
の英語を覚えやすい教科書、単語帳を使い勉強しました。SDGs といった今注目されて
いる社会的問題も調べて、パワーポイントで発表したり、社会に出て必要なスキルを
身につけることもできます！この SDGs を調べて、発表してみんなでこれからどうなっ
ていくか、自分たちにできることはどう言うことがあるのかを話し合い、身近に勉強
したことを発揮できるようなゼミだと僕は思っています。これも金子先生がしている
内容言語統合型学習 (CLIL) の一環だと思います。内容言語統合型学習 (CLIL) とは教科

卒業研究

4年 岩崎 力丸

金子ゼミは、みんながそれぞれ個性的でありそれぞれが自ら考え行動していくゼミです。しかし、それぞれが凄く金子ゼミが好きだしゼミに対して実は凄く熱を持っています。まさに、一人一人が「心を燃やしている」のです。私たちはこのゼミを選んで大正解でした。

4年 斎藤 愛真音

国連サミットで採択された持続可能な開発目標である SDG s について様々な学びました。高校で扱う教科書を用いてそれぞれのトピックがどう SDG s と関連しているかを調べたり、自分自身が選んだトピックについて深く考察し、それを卒業論文としてまとめました。みな和気あいあいとしており、とても良い雰囲気で授業に取り組んでいました。

4年 青木 美憂

ゼミでは、定期的な単語テストや英語でのプレゼンテーションがあり、総合的に英語の力が向上しました。また金子先生が穏やかで優しいので、ゼミの空気も温かく、毎週ゼミの時間が楽しみでした！英語を学ぶ上で英語教育について触れることは、自身の学習にもとても役立ったと感じています。ぜひ金子先生のゼミに来てみてください！

4年 池谷 祐輝

卒業研究は、高校生の英語の教科書の内容を SDGs と関連づけて分析していく講義です。分析と聞くと難しく感じると思いますがやっていくと思っているより難しくはありません。また、金子先生が優しいため緊張することなく分析した内容のレポートを発表できます。SDGs の目標は地球で生活する上に大切なことなので学ぶことは大事です。

4年 磯貝 大地

金子ゼミの最も良い点は温かみのあるアットホームな空間ということです。金子先生自身がおっとりとした優しい性格であり、ゼミ生にメリハリをつけさせてくれる頼れる先生です。堅苦しい空間が苦手な、家だと勉強が捗らないという方にはおすすめです。環境は大事です。あらゆる条件が整った環境で卒業研究しませんか？

4年 神谷 美麗

金子ゼミはみんなそれぞれ異なった目標を持っていましたが、金子先生は私たちのやりたい事を尊重してくれました。授業では、SDGs や CLIL の基本概念について学び、研究では高等学校のコミュニケーション英語で使用されている教科書と SDGs の関連を調べました。授業での分析レポートの作成や日本語・英語のプレゼンテーションを通して、SDGs の知識や、

発表する力がつきました。

4年 木村 葉月

金子ゼミは英語教育をテーマにして、3年生では英語のアウトプットを中心に、4年生では卒業論文制作を中心に行いました。アウトプットをする機会がとても多いので、プレゼンテーションやディスカッションをする力がかなり付きます。先生はとても親しみやすく、ゼミはアットホームな感じで自分の意見を発言しやすい環境です。

4年 時田 亘

卒業論文ではまず、中学校、高等学校で扱われている英語科の教材から環境問題や貧困、エネルギー資源などの地球が抱えている問題として考えられる題材を選び出し、そのトピックについて深く考察していくことが始まりでした。また、SDGsが掲げる17つの目標とそのトピックがどのように関連しているのかを調べ上げ、各々で自分たちなりに考えをまとめて全体に発表することが今回の卒業論文となりました。授業の様子は楽しい雰囲気、毎週ゼミに出席するのが楽しみでした。

4年 成田 聖

金子先生のゼミでは自分たちが主体となって研究を進めて行くことが出来ますし、3年次においては英語のインプットだけではなく、アウトプットを行うことが出来る場を作ることができます。更に英語への理解を高めたい人や英語を使う機会そのものが欲しい方は是非と思います。

4年 山下 智也

卒業研究はアットホームな環境なのでとても取り組みやすい環境で学修できます。またプレゼンなどを通して自身の考えをゼミの仲間と共有する機会が多くあります。自分の興味あるトピックを深掘りし卒論にまとめます。先生が温かいので落ち着いた環境で学びたい人はお勧めです。



高野 敬三ゼミ

専門領域研究講座

3年 金田 麗音



高野先生のゼミは日本の英語教育についての歴史を学ぶゼミです。前学期には昭和ごろの学習指導要領を読み、英語教育の変遷を知り、それをまとめ毎回の授業でプレゼンテーションを行い進む方式をとって学修していました。後学期には『英語教育大論争』という本を読み、論争を行う 2 人の登場人物の意見を理解し噛み砕いた上で、自身の考えを踏まえまとめて発表するという、前学期・後学期で異なる題材をテーマとしてゼミを行ってきました。このゼミは英語教育の歴史の変化を学ぶという観点から見ても、毎回の授業で資料の内容をきちんと理解し、自分の言葉でまとめて発表する形式を取っていることから、教職課程を履修している学生と非常に相性が良いゼミだと 1 年間学修して、身にしみて感じました。

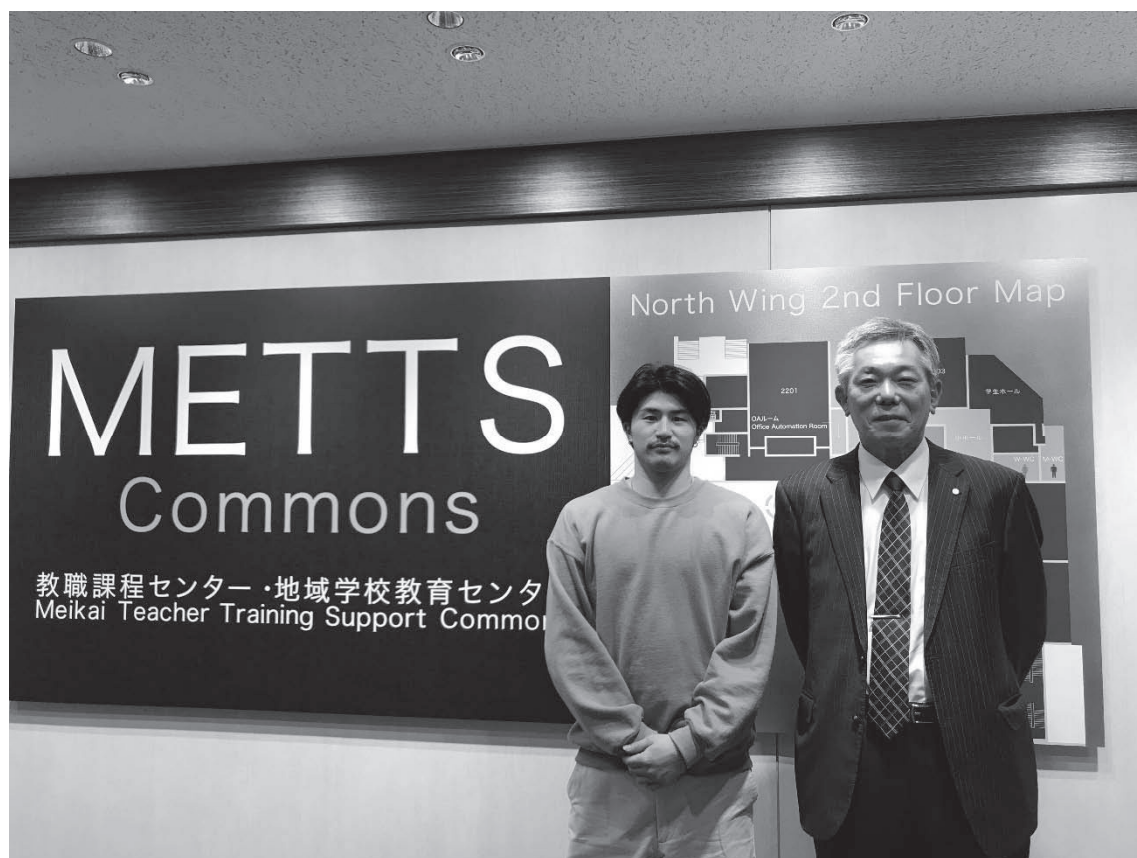
私は正直に言ってしまえば、教職課程も履修していませんし、将来英語の教師を目

指しているわけではありません。ゼミの加入で困っていたところを高野先生のご厚意で少し遅れてゼミに加入させていただきました。初めは自分の将来とは直接関係がないであろうと少し不安を抱えていました。しかし私の学年で高野先生のゼミに加入しているのが私だけだったこともあり、先生には非常に柔軟な対応をとっていただき、本来高野先生のゼミで行うはずの活動を簡略化し私が進めやすいような授業進行を行っていただけのおかげで、1年間非常に楽しく学ぶことができたと思っています。

この1年間で高野先生のゼミから学べたことは非常にたくさんあり、とても多くの経験を積むことができたのではないかと考えています。その中でも印象に残った経験は「準備すること」と「文章を正確に読み解くこと」です。

1つ目は大学生になった皆さんであればもちろん備わっているようなごく普通のことだと思います。しかし私がここで言いたいのは、準備することでそれが私たちに与えてくれる影響についてです。高野先生の授業は初めに言ったとおり主な授業活動はプレゼンテーション資料の作成、そして発表です。資料の作成や発表にはそれを作成する元の資料を理解し自分の言葉でもう一度組み立てる必要がありますが、それをおこなうには綿密な準備が必要になってきます。私はこの1年間のゼミ活動を行ってきた中で毎授業100%の準備をできたかと言われるればそうではありませんでした。しかし、きちんと準備した時とそうでない時の決定的な違いは「自信」だと思います。人間であれば理解できないものや知らないことには自然と不安を覚えると思います。それらに対処するには自分で正面から問題にぶつかって知識を得るしかないと感じました。1年間でこれだけプレゼンテーション発表を行うことができたおかげで、時間をかけた準備は自分の自信につながることを学ぶことができたと思います。

2つ目の理由は主に後学期の授業の題材として取り上げた、『英語教育大論争』という本を読んで感じたことです。この書物は少し前の時代のものなので、これまでに見たことのない文字や言い回しがとても多く、読解が非常に困難でした。そのため高野先生からきちんと言葉の意味や解説を受けなければ理解が難しかったため、いつも以上に言葉の意味や文章の理解に時間を割いて読解していました。普段の読むような自分が知っている言葉が羅列されている本であれば、特に気にもかけることなく読んでいましたが、この『英語教育大論争』は先ほど記述したように、文字や言い回しが難しいのはさることながら、筆者は非常に弁がたつ方だったため、考察すればするほどたくさん意味が込められている事ことに気づくことができ、これから先何かを読んだり見たりする中で、後ろに隠れている込められた思いのようなものを理解することができると思うとこのゼミを通じて強く思いました。



高野ゼミで3年次、4年次に学ぶことを説明していきます。まず3年次、前学期に日本の英語教育、学習指導要領の変遷について、後学期では夏休みにまとめた英語教育大論争について詳しく、また学習指導要領の変遷について学びます。そして、毎授業パワーポイントにまとめ発表します。高野先生が丁寧に指導して下さるので、1年を通して、文を読む力、まとめる力や発表する力が身につきます。なにより英語教育の歴史について深く学べ、現代ではどういった英語教育が求められているのか、どう変わってきたのかが詳しくわかります。そしてこのゼミで知識として取り入れたことを、他の授業で使えたり、自分自身が授業を展開するためにもとても役立つ内容です。どのような教員になることが理想なのか、そのためになにをやるべきなのかを考えさせられ、身につけられる、自分のためになることが山ほど詰まっています。また3年次の一年間を通して、自分はタイピングがとても苦手でしたが、授業や課題でパソコンを使用するためタイピングの向上にもつなが

りました。

次に4年次では、昨年仕上げたゼミ論文を広げて、英語教育に関して自分の興味のあるものを題材として卒業論文を仕上げていきます。自分のテーマは、主題「戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか」、副題「高等学校学習指導要領の変遷と日本人の英語力」です。同じ題材でプレゼンテーションをしていた3年次とは異なり、自分で考えたテーマをもとに多くの資料を集め考察する4年次では、良い刺激になります。今年は、コロナの影響により対面での授業も少ない中でしたが、高野先生のアドバイスをもちに卒業研究の資料集めや自分の考えをより詳細にまとめることができました。とても充実したゼミを過ごすことができました。先生が講義をする授業というよりは、自分で調べ考える時間が圧倒的に多いので自分の力が確実につきます。二年間ゼミを通して文章を読んで要点をまとめる力がつきました。内容は少し難しいところもありますが、教師を目指す人もそうでない人も自分たちが育ってきた環境やこれからの教育について考えられるので勉強になります。何よりも高野先生は、とても面倒見がよく、自分が困っているときはいつも助けてくれます。とても学生思いで優しい先生です。自分は高野先生だからやってこられました。ぜひ充実した学生生活を送るためにも充実したゼミをよく考え選んでください。教育関係に興味のある学生は強く高野ゼミをおすすめします。

私たちのゼミは、はっきり言って教職を履修している人にお勧めのゼミです。しかし、プレゼンテーション能力を付けたい人は、このゼミでは、毎授業プレゼンテーションをするので力が上がると思います。学生自身がプレゼンテーションをするので授業は楽しく、周りのプレゼンテーションも見ることによって他の学生のいい部分を自分に生かし、プレゼンテーションの力がぐんぐん上がっていきます。

百瀬美帆ゼミ

専門領域研究講座

今年はたった3人ですが、リサーチ、発表、模擬授業を行いながら忌憚のない意見を交わせる人間関係を作ることができました。

鵜沢 美里

百瀬ゼミでは、「教科書の題材に沿っていく授業ではなく、自然に生徒が主体的に考えて取り組める授業展開を行うには、どうしたら良いのか」を百瀬先生がモデルを示しながら学んでいくことができます。具体的に行ったことを三つあげると、まず一つ目は、映画を使った授業の目的を学び、そして実際に模擬授業をしました。二つ目は、防弾少年団 (BTS) のキムナムジュンが国連総会で行ったスピーチを題材とし、導入の際に生徒の興味関心がわくようにする方法や、授業展開の方法を学びました。三つ目は、1つのプログラムの授業を行う際に、内容確認を行うための方法や発問方法を学んでいきました。そして、例に挙げた三つすべての授業において、ただ学ぶだけでなく、百瀬先生も交えながら、ゼミ生同士でどうしたら良いのかを話し合い、考えを深めていきます。また、百瀬ゼミは教職課程を履修している学生のみが集まっているため、同じ志を持った仲間と共に学ぶことができます。そして、四年生の先輩方とも関われる機会があるため、縦のつながりも持つことができます。

高橋 勇気

私たち百瀬ゼミでは、毎回百瀬先生から与えられた課題や問題についてゼミ生全員で考えたり授業の展開の仕方についての講義を受けた後、各々が準備をし、実際に模擬授業という形で自分でもその授業の展開の仕方を体験したりしました。前学期は一部期間を除き、オンラインでの講義となってしまいましたが、対面において講義が行うことができる期間には映画を使った授業の展開の仕方について考えて行きました。また、後期は韓国の音楽グループである BTS (防弾少年団) のリーダー、キム・ナムジュン (RM) が世界中の若者たちへという題目で 2018 年に国連総会にて行ったスピーチを題材にした授業の展開の仕方を考えて実際に披露したり、『英語で英語を読む授業』という本を題材にしてリーディングの授業の展開の仕方について考えたりしました。もちろん英語力強化も行いました。百瀬先生はとてもわかりやすい指導を行ってくれるためとても身に入りやすいです。教員を目指す方で、特に指導法についてくわしく学びたい学生はこの百瀬ゼミにはいることをオススメだと思います。

庭山 航瑠

こんにちは。百瀬ゼミの庭山です。このゼミは教職生しか入ることができませんが少人数でとても楽しいゼミです。教職の先生方もそれぞれゼミを持っていますが、百瀬先生のゼミは教師になることを考えている人なら入ることをお勧めします。教職生と言っても教育学部ではないのでみんながみんな教師になる！という気持ちじゃないのはわかっています。とりあえず教員免許だけ取ればいいやという教職生にはあまりお勧めしません。しかし少しでも教師になる気がある人ならきっと楽しいと思います。百瀬ゼミでは色々な教科書の教材研究や、英語教育についてより深く学んだりしています。人数が少なく気のついた仲間だからこそ遠慮なく発言できたり様々なことができますと思います。そして百瀬ゼミの良いところは3.4年生の距離が近いことです。私たちが取るべき他の授業がどんな授業なのか、模擬授業や指導案をどのようにしたらいいか、教員採用試験のことなど教職生特有の悩みもそうでない悩みも気軽に相談することができます。私たちもそうしてきました。百瀬ゼミに入って一緒に百瀬先生のような良い教師になれるように頑張りましょう！



卒業研究

百瀬ゼミ初めての卒業生を送り出します。全員が教職希望。4年間よく頑張りました！4月から東京都、千葉県、新潟県で教職に就きます。頑張ってくださいね！

金子 駿太

百瀬先生はゼミ生全員に優しく私たちのお母さんの存在です。私達は勉強があまりできなく先生には多くのご迷惑をかけてきましたが、ひとつずつ丁寧に教えて下さりました。丁寧なご指導があった結果、多くの学生が教員採用試験合格という最大の恩返しをできたと思っています。最高のゼミです。2年間ありがとうございました。

内藤 卓

常に瀬戸際に立っていたような学生生活を支えてくれたのが百瀬先生とゼミ生でした。教員採用試験や教育実習の際には一番親身になって教えてくれました。教職のゼミにしかない魅力が詰まったようなゼミです。次に入る学生も、すでにゼミに入っている学生も家族のような関係をゼミの中で築いてください。

中村 陸

先生のゼミとは燃え盛る旅の途中で出会い、手を取りそして離れた未来のために夢1つ叶うたび、僕はこのゼミを想うだろう教師になりたいと願い、泣いた決意を餌に。ゼミのみんなとの幸せと約束を超えていく振り返らずに進むから、前だけ向いて叫ぶから、心に炎を灯して、遠い未来まで。これから私たちは学校の中にいるからだから私たちの火花で教育界を照らすのを見ていて教師と生徒でこの未来を照らすだから輝かせるよ、ダイナマイトのように。

宮本 隆一

生徒たちは授業中受け身であるのが今までの学習方法でした。しかし、学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で深い学び」で「何ができるようになるか」を明確化することを主眼において教育が変わってきています。百瀬ゼミでは、新学習指導要領に基づいた実践的な英語教育についてみんなで深く学び、深く考え議論する楽しく賑やかなゼミです。

信太 明日華

誰にでも優しく学生思いの百瀬先生のゼミは、毎回とても興味深いです。ゼミの授業の中で、ゼミ生たちがお互いの中学校や高校で行った教育実習での研究授業の模擬授業をした時には、百瀬先生から授業作りのアドバイスをいただきました。RとLなどの発音の違いを絵を用いて、わかりやすく丁寧に教えてくださいます。あたたかくて、とてもアットホームな楽しいゼミです。



錦織 由佳

いつも一緒にいるメンバーという意識がつくゼミです。それは良いことは共有し悪いことは一緒に乗り越え、切磋琢磨し合えるという存在です。このゼミでは基本的には教師になる為の勉強をするゼミですがそれだけではなく社会人になる者として、人としてという面でも多くのことを学べる素敵なゼミです。

山崎 隼弥

すごく楽しく多くを学べるゼミです。教職を目指す者として同じ方向をみてみんなで切磋琢磨できる、そんなゼミだと思います。1年生の時から培ってきた知識を、ボランティアや授業内を通して実践することができることもこのゼミの魅力の一つです。そして何よりこの百瀬ゼミの魅力はまるで家族のような温かい雰囲気だと思います。困った時には優しい救いの手を差し伸べてくれる、まるで「母」のような存在がいる百瀬ゼミはとても頼りがいがあり一番のゼミだと思います。ということで「おいでよ、百瀬の森。」

鶴巻 紗希

きずなを感じるゼミでした。仲が良すぎて話が盛り上がり授業がままならないことも多々ありました。しかし、仲が良いからこそ模擬授業や指導案の意見交換ができ、結果それぞれが素晴らしい教育実習ができました。90分の授業などで教えていただいたことは私たちの人生の糧になるはずです。私たちの母、百瀬先生に心から感謝しています。

山崎 紗緒里

できること、できないことそれぞれ皆持っていますがそんな個性豊かな学生を百瀬先生はしっかり見ていてくれて引っ張ってくださいます。またゼミの仲間もたくさん関わっていくことによって相手を知り、一人一人支えてくれるようなゼミで日々協力、成長することができると思います。

寺内 朋之

すごく簡単に言えば、このゼミは教職ゼミです。そのため、教育実習や採用試験の前は心強いアドバイスをいくつももらえますし、同じ志をもった仲間と情報共有ができます。また、最新の教育方法を、まさにその点で評価されていた百瀬先生自身が教授してくれるので、授業がうまくなること間違いなしです。

卒業研究題目一覧

川成美香ゼミ

1	山田 武志	ビジネストークにおけるポライトネス研究 —Brown & Levinson のポライトネス・ストラテジーを用いて—
---	-------	--

河原伸一ゼミ

1	小谷 榛佳	米中貿易戦争に関する考察
2	清水 珠実	『浦島太郎』の再読
3	遠田 実玖	家族間の変化によるこれからの考え方
4	西村 陸	印紙税の未来に関する考察
5	吉岡 彩世	功利主義に関する考察
6	吉田 周平	コンビニ業界の今後の成長戦略に関する考察
7	和田 伸吾	e スポーツの現状と今後に関する考察
8	橋本 美玖	ペットの存在に関する考察

菊地翔太ゼミ

1	網 穂乃佳	漫画『ハイキュー!!』原作と英語版の比較
2	首藤 茉由	英語諸変種における同一概念を表す単語の使用について
3	武井 勇樹	英語前置詞の英米差について
4	玉置 鞠亜	苦手な他者へのコミュニケーション —対人ストレス・コーピングにおける男女比較—
5	本間 大地	異形との愛の物語である映画『シェイプオブウォーター』とディズニー映画『美女と野獣』の比較 —テーマの共通性と表現の変化—
6	山形 野乃	『美女と野獣』のアニメーション映画と実写映画の比較 —ジェンダーの観点から—
7	山口 果恋	英語における日本語起源の借用語について

熊谷学而ゼミ

1	青野 咲	英語の楽曲における母音の変化
---	------	----------------

2	坂入雄一郎	ゆるキャラの名前における有声阻害音の音象徴
3	平原 豪	赤ちゃん用粉ミルクの名前と両唇音の音象徴
4	中村 亮介	たまごっち・サンリオキャラクターにおける両唇音の音象徴
5	鈴木 翔	共鳴音を含むオノマトペが与える影響について
6	渡辺 美帆	イギリス出身の歌手の楽曲におけるアメリカ英語の発音
7	井上ゆうな	音楽による心境の変化
8	加部由希乃	赤ちゃんの発達と音楽
9	小池 亜月	ソーシャル・ネットワークの関係性構築における紛争解決時のメッセージの特徴について-グループ・チャットからの事例分析-

小谷哲男ゼミ

1	塩谷 恵美	米中対立の本質-デカップリングがもたらす影響
2	鈴木 千幸	改正出入国管理法の問題点 -ポストコロナにおける外国人材の受け入れ-
3	苫米地郁穂	アメリカとイラン核問題-オバマ政権とトランプ政権の比較-
4	三上伊緒莉	日本の雇用における男女不均等問題 -安倍政権の取り組みから考える-

小林裕子ゼミ (提出順)

1	大関 夕惟	日本の食品ロスの現状 -食品ロス増加の原因究明とその対策-
2	藤本咲弥香	株式会社アクティオの研究 -世界のインフラ整備を牽引する「レンサルティング」企業-
3	小松 朱里	自然災害への対策から生まれるコミュニケーション -東北地方太平洋沖地震を通じて-
4	大西洋太郎	人類と環境 -人間の活動に起因する環境問題と生物への影響-
5	佐藤 純眞	ステレオタイプと差別 -教育によって変えられる世界-
6	岩田 光立	労働生産性から見た日本社会の課題 -諸外国との比較から解決の糸口を探る-

7	杉原 慶哉	モノの本質の迷走 —大量消費からの脱却—
8	泉川 実穂	教育は貧困を救うか —「豊かさ」について世界の子供たちの暮らしから考える事—

【豊かな個性を背景に主張爆発の渾身の卒業研究です。頑張りましたね(^0^)/小林裕子】

嶋田珠巳ゼミ

1	宇野 哲平	死語の背景と文化
2	香村 柁紘	差別語の実態—いくつかの差別表現から
3	島村 累	言葉によって作用する力—営業時の顧客とのコミュニケーションを中心に
4	鈴木 晴貴	他国と比べる日本の配慮
5	福本 智也	リーダーの言葉—どういう言葉で人は動くのか
6	中山 祐希	「凄い」という形容詞は凄い。どれくらい凄いかっていうと、凄く凄い。
7	嶺村 侑輝	普通とは何か—逸脱論からの検討と教育場面でのあり方
8	西川 遼	方言の違いと略語の関係-略語の種類と東西間における略語の違いについて

高田智子ゼミ

1	林 竜之介	言語の形式・意味・機能の観点から理解する叙想法 —話者の意図を考える—
---	-------	--

津留崎毅ゼミ(名簿順)

1	鈴木 亮	カタカナ英語の理解度調査
2	坪田 美奈子	キラキラネーム実態調査 —様々な世代を比較して—
3	清水 滉貴	男女の恋愛観と人間関係
4	ニフ ルブナ	通じない「カタカナ英語」
5	安藤 侑己菜	恋愛における関係破綻と修復の研究 —日米恋愛映画を題材に—
6	藤田 祐也	量の行動指針と情報量の研究

		—高コンテクスト文化と低コンテクスト文化の比較—
--	--	--------------------------

※ 1～5は「卒業レポート」、6は「卒業論文」。

ケイコ・ナカムラゼミ

1	粕谷 研之	The correlation of dialects and the development of new languages in the Philippines
2	川邊 由香	洋画タイトルにおける日本語と英語の比較***
3	小池 まい	吃音者を取り巻く環境と必要な支援
4	吉永 祐太	Speeches of Barack Obama and Donald Trump: A comparison
5	松本さゆり	Language use in bilingual, trilingual and multilingual speakers
6	田邊 舜	翻訳のプロとアマの差異を体験
7	白井 萌	天国と地獄から見る日本人の死生観
8	田中 虎丸	The preference of English words of Japanese people
9	渡邊 一飛	英単語の暗記方法と効果の差
10	緑川佳奈枝	恋人関係におけるプレゼントの有効性について
11	森屋 碧	人生におけるシアワセとは何か？
12	村山 侑也	アモーダル補完と印象の研究～錯視・錯覚で好感を操作～
13	吉田 雪乃	ASMRの好みの違い
14	二瓶 友美	Tomomi Nihei: A Portfolio

***Senior thesis (卒業論文)

【What a great group of students! Such distinctive personalities & interests. Best of luck!】

松井順子ゼミ

	Presenter	Title	Interpreter
1	丸山 美佑司	Japanese Etiquette	Eiu Yingyu Yan
2	羅 雲雄	Motivations for Learning English at University	Yangyang Yu
3	ウッサワッタ リヤナゲー アヌシカ	Home Food and Restaurant Food	Rena Huseini
4	内海 知広	Whether Smartphone Usage Affects Time Perceptions	Mai Do Thi

5	江川 歩果	Experimental Diet	Tomone Kiyama
6	閻 英宇	Smartphones and Sleep Disorders	Myuji Maruyama
7	金子 歩美	Comparing Online Shopping Giants Rakuten and Amazon	Ayaka Tsukamoto
8	木山 朋音	The Power of Hot Water	Ayuka Egawa
9	塚本 彩香	Musicals and Disneyland	Ayumi Kaneko
10	ドー ティ マイ	How to become a Confident Person	Tomohiro Utsumi
11	フセイニ 玲 南	Discrimination and Equity	Anushika Uswaththa Liyanage Sajani
12	三浦 歩美		
13	余 陽陽	The Importance of Reading Books	Unyu Yunxiong Luo
14	ラグスタン ヴィンセント マリング	Earning Money and Spending Habits	Yumi Sugiyama
15	杉山 優美	Activities during Covid 19	Vincent Lagustan Maling

(In order of year and Japanese alphabet 学年・五十音順)

【Unique, Valuable Results/Amazing Progress over Two Years/Clear and Bold Interpretations!／

June-ko Matsui】

金子義隆ゼミ

1	青木 美憂	世界の教育問題
2	池谷 祐輝	人を支える存在
3	磯貝 大地	今まで、これからの地球環境
4	岩崎 力丸	英語力向上と道徳心
5	神谷 美麗	世界の貧困と日本の貧困
6	木村 葉輝	新しい食卓
7	斎藤愛真音	暮らしやすさか、環境保護か？
8	時田 亘	私たちの未来は？
9	成田 聖	森林環境問題とそれを取り巻く事実
10	山下 智也	より良い未来の実現を目指して！

<各自が興味を持ったトピックを掘り下げた研究になりました！金子義隆>

高野敬三ゼミ

1	小出 駿平	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか ー高等学校学習指導要領の変遷と日本人の英語力ー
---	-------	--

百瀬美帆ゼミ

1	金子 駿太	学校における英語授業の実態～生徒に対する英語授業の改善
2	信太明日華	タスク中心の教授法に基づく高校2年生の英語授業 ー意思決定タイプのタスクを活用した英語授業の指導案ー
3	鶴巻 紗希	Teacher Talk と Classroom English がもたらす生徒への動機づけー 生徒の学習意欲を高める教室での教師の役割ー
4	内藤 卓	教科書理解における授業展開ーSmall Talk から英語リーディングへー
5	中村 陸	これからの外国語学習における Small Talk の必要性
6	錦織 由佳	高等学校における ICT 教育の在り方
7	宮本 隆一	ジグソー法の実践と課題
8	山崎 隼弥	生徒とのラポールを活かした授業内活動
9	山崎紗緒里	4 技能偏りのない英語教育を行うにはー日本で苦手とされる話すこと・書くことの力を伸ばす活動ー
10	寺内 朋之	日本における外国人児童生徒に対する教育課題とその解決策

2020 年度 英米語学科 卒業研究発表会・報告会

2021年2月5日（金）に「2020年度 卒業研究発表会・報告会」が開催されました。例年は学生が一堂に会していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、発表者数や時間などを制限して、教員と登壇学生のみが講義室でのライブ配信を行い、他の3・4年次ゼミ生はリモート参加となりました。

第1部では3名の学生が発表を行いました。皆、論文執筆に苦勞しながらも、指導教員の助言やゼミ生同士の励まし合いで書き上げ、大学4年間の学びの集大成としての卒業研究の成果を立派に披露しました。引き続き第2部では、各教員から卒業研究の成果報告がなされました。視聴者である3年生からは、「4年生のプレゼンをZoomでも視聴できて勉強になった。」「各ゼミの論題の説明が参考になった。」等の声が聞かれました。

ライブ配信の発表会は初の試みでしたが、重要なイベントである「卒業研究発表会・報告会」を無事に終えることが出来ました。

発表者	指導教員	題目
中山 祐希	嶋田 珠巳	「凄い」という形容詞は凄い。 —どれくらい凄いかっていうと、凄く凄い。—
青野 咲	熊谷 学而	英語の楽曲における母音の変化
渡辺 美帆	熊谷 学而	イギリス出身の歌手の楽曲における アメリカ英語の発音



2020年の海外研修（CQUを除く）、GSMフィールドワーク、スピーチコンテストは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となりましたので、報告書への投稿はありません。

海外英語研修 CQU大学（オーストラリア）

この英語研修は2020年2月から3月に行われたものです。

新しい第一歩 in Australia

2年 阿部 絵梨華

「長い春休みの間に、英語力を向上させるため、私ができることは何だろう？」そう考えたことがきっかけでオーストラリア海外研修に応募し、約一ヶ月間シドニーの学校へ通い、楽しみながら日々多くのことを学ぶことができました。

私がこの研修期間中に実感したことは、英語力向上のためには4技能（読む・聞く・書く・話す）すべてが大事ということです。留学に行く前は、英語の試験があるときはリスニングやリーディングだけを中心に勉強をし、ライティング・スピーキングの時間をとらないという勉強法を続けていました。しかし、オーストラリアでの授業を受けたり自分から現地の先生やホストファミリーの方々と交流を深めたりするうちに、言語に対する考えが変わり、英語力を高めるには4技能すべてが大事であり、繋がっていると気づきました。例えば、オーストラリアの授業では最終日に自分たちでオーストラリアの歴史や文化につ



いてのプレゼンテーションを行いました。プレゼンのために、参考となる英語の資料をすべて読んだり、動画を見たりする必要がありました。また、原稿をつくる上で文章の構造に注意をしながら書き、その原稿が正しいかどうかの確認をネイ

ティブの先生にお願いしてコミュニケーションを何度も取りました。最終日、発表後に私たちのクラスを担当してくださった先生が「最初と比べて確実にレベルが上がったね。」と仰ってくださいました。このことから、発表のために準備していた行動がスキルアップにつながっていると実感することができました。また、このことを踏まえて帰国後、自分なりに勉強をし続けました。私は、2021年度に長期留学を目指すことを決意していたので、長期留学の必須条件である TOEFL IBT 45 点取得に向けて、日々努力しました。留学で得た経験の成果もあり、TOEFL IBT 45 点を突破することができました。このように、4 技能を満遍なく勉強することによって私たちが一番上達したいと思うスピーキング力を獲得していると、就職時などに役に立つ英検・TOEIC などの良い成果を得ることに繋がるということがわかりました。

この留学体験は、今の自分とそしてこれからのビジョンを見つめ直す、とても良い機会となりました。また、大きな自信ももたらしてくれました。このオーストラリア英語研修で得た経験を活かし、さらに自分の可能性を広げていきたいと思います。最後に、この留学に参加することを許してくれた両親、ホストファミリーとして受け入れてくださったホストファザー・ホストマザー、CQU の先生方、海外研修が成功するように支えてくださった大学の先生方にとっても感謝しています。



初めての海外研修～オーストラリア～

2年 大山 紗季

私は2020年2月16日～3月14日までの約1ヶ月間オーストラリアのシドニーにあるCQユニバーシティで語学研修をしてきました。授業では午前中に教室で英語の基礎についてなどの学修をしました。午後には観光に行ったり、ショッピングをしたりしました。午後がフリータイムの時もあり、その時は自分たちの好きなところへ行きました。授業で使うテキストは週初めに配られます。2週目からはみんなで撮った写真を表紙にして作ってくれたので毎週新しいテキストを見るのが楽しみでした。土曜日はツアーに行き、日曜日はフリータイムでのんびりしたり、ショッピングに行ったりしました。最初の週ではオーストラリアについての地理や食べ物、海でのルールなどについて学びました。また、自分たちが事前学習で何について調べたのかを話しました。2週目では各国のお金について、形容詞の比較級や最上級、最後の週で行うプレゼンテーションの準備をしました。3週目では完了形やaとtheの使い方、道案内の仕方について学びました。最後の週ではミニマルペアを聞き分けられるように練習をし、未来形の学習、準備してきた内容をプレゼンテーションしました。どの授業でもディスカッションをペアでしました。習った表現を実際に使えるようにするためにペアで練習をしたりしました。「Integrated English」のような授業でした。

この研修ではホームステイをします。私のホームステイ先ではホストマザーとホストファザーとプードルがいました。ホストマザーは日本人でしたが日常会話は英語で話しました。分からない表現がある時は親切に説明してもらいました。ホストファザーはシェフで毎日いろいろな料理を作ってくれました。研修中に私は誕生日を迎えました。その日に手作りのケーキを作ってくれました。夕食には唐揚げを作ってくれました。どれもとても美味しかったです。サプライズだったので驚いたのと同時にうれしかったです。バースデーカードももらいました。一生大切にしたいと思います。



私は海外に行くことが初めてだったので現地の人たちと会話ができるか不安でした。しかし、この研修を通して伝えようとするのが大事だと感じました。また、人の親切に触れ、自分も日本に訪れた外国人の人たちに今よりも親切に対応したいと思いました。研修へ行く前は授業中に発言することが恥ずかしかったですが、研修後は発言することは自分にとってメリットになると気づきました。思ったことや分からないことは積極的に発言していきたいと思います。最後に1ヶ月間研修を頑張れたのは私を支えてくれた家族のおかげです。私がかくじけそうになった時に家族が励ましてくれ、前向きに研修を受けることができました。改めて家族の大切さに気付かされました。



オーストラリア CQU での語学研修を経て

3年 佐久間 健祐

私は今回、オーストラリア・シドニーにある CQU への留学を2月16日から3月14日までの1ヶ月間体験しました。一日のスケジュールは朝9時からお昼休憩を挟み午後2時まで現地の先生の授業を受け、午後はツアーによるシドニー市内の案内や自由行動などでした。土日はフリータイムもしくは普段のツアーでは行けないような場所へ船やバスを利用し行きました。人数編成は私たち学生が5人、先生が1人でした。普段の大学生活からは考えられないような人数でしたが、授業のテンポが早く、発言の機会が多くありました。また日本から訪れていたほかの大学生、イスラム圏出身の留学生とも交流する機会があったことが非常に良かったと思っています。授業ではオーストラリアの先住民であるアボリジニにまつわる歴史、衣食住の文化やオーストラリアの人々のライフスタイルなどを

学びました。基本的に2～3人のグループになり、意見交換をする場面が多かったように感じます。またグループでの意見交換後は先生も交えてディスカッションをする形が必ず取られました。また、日本でよく行われる英語の授業のような語彙、文法に関わる学習、新たな口語表現なども学習しました。また授業後には予習を兼ねた課題も出されました。本文を読んで質問に答えるもの、指示に従い質問を考えるなど、課題の形は様々でしたが、前向きな気持ちで取り組むことが出来ました。授業のまとめとして日本とオーストラリアの間にある文化的違いについてのプレゼンテーションを行いました。焦点を当てるべき文化は何かを考えるのに苦労しました。ホームステイではシングルファーザーと3人の子供も達、またベトナムから来ている女性と同年代である韓国からの留学生とも共に過ごしました。英語でコミュニケーションを取らなければならない場面でしたが、臆することなく自ら積極的にコミュニケーションを取ることが出来ました。自分の言いたかったことがしっかり相手に伝わった時、改めて英語を学んで本当に良かったと感じました。



私は今回、この研修に参加したことで異文化に適応する力と語学力向上はもちろんのこと、人とコミュニケーションをとること、繋がりを持つことの重要性を学びました。英語を用いた職、人と関わることを職としたい私にとって、このような貴重な機会を得られたことは大変嬉しいことでした。新しい世界に飛び込むことで新たな発見が出来ますし、人としても更に成長出来ると思うので、海外留学、研修をしたいと考えている人には強く海外へ挑戦することをお勧めします。きっと新しい何かが見えてくるはずです。最後にこのような体験をするにあたって留学を快諾してくれた両親、環境を整えてくださった先生や旅行会社の方、全ての人に感謝の意を示します。ありがとうございました。



海の都市での冒険

3年 辻 慎太郎

2020年、2月16日から3月14日までの約1ヶ月間、オーストラリアはシドニーにあるCQユニバーシティへ、短期留学へ行ってきました。毎日がとても魅力的で刺激的であり、とても濃く凝縮された1ヶ月でした。滞在先はシドニーのモートデールで、ギャリー、イザベラ夫妻のお宅へホームステイをさせて頂きました。初対面の際はとても緊張してしまいましたが、それを察してすぐにハグをして出迎えてくれました。時にはみんなで大きな家の庭でスープを飲んでゆっくりしたり、料理を一緒にしたりして本当に平和で幸せなホームステイとなりました。

さて次は、留学中の1日の流れについてです。まずは朝7時に起床、モートデールのローカルバスで駅へと向かい、そこから電車でシドニーの都市部、Town Hall 駅へ向かいます。そして駅から5～10分ほど歩いて学校へと向かい、9時からの授業を終えると、午後

には様々なプログラムが用意されています。その時間ではシドニー近郊にある観光地をCQUの先生に案内してもらったり、美術館、そしてシドニーの美しい浜辺へ行ったりして、勉強後のご褒美のような気持ちで毎日ウキウキしました。留学前はいろいろな所に行きたいなあ、予定を組んでたくさん回れると良いなあと思っていたのですが、プログラムに観光地巡りが組み込まれていたため、自分の思っていた以上にシドニーでの思い出をたくさん残せたので、とても充実しました。日常生活での思い出は多すぎてまとまりませんが、私たちの担任スヴィトラーナ、副担ディラン、週に何回か現れるニコラやリビーなどの先生方、お昼ご飯の時カフェで「いつものハムとチーズのサンドでいい?」と言ってくれていた、みんな大好きなおばちゃん、毎日漫画を見に通っていた本屋、シドニーで食べるラーメン、海を渡るフェリー、神奈川から来ていた学生たちとの出会いなど本当にいろいろあって、人生で忘れられない1ヶ月でした。

実は私はこの留学が初の海外渡航でした。出発前、それはもう心配と楽しみが脳内を埋め尽くしていましたが、いざ行ってみると、シドニーは人生で見たこともない建物や食べ物、生き物などが混在する漫画のような世界でした。建物もスーパーも本屋も、なにもかもが大きいのです。驚きと感動に圧倒されたのは20年間の人生で初めてでした。そして人が優しい。治安がいい。景色もいい。これだけでも初海外はシドニーで良かったと思えますが、今回の留学で最も良かったのは約1ヶ月、ほとんど毎日一緒にいた仲間たちの存在です。同じ大学の友達なんて日本でいくらでも良さを感じられるだろうと思うかもしれ



ません。しかし、新しいことばかりの世界を共有し、苦勞を分かち合い、海外での楽しいことすべてを共に経験した仲間、そのような存在は今後の人生でもなかなか出会えることは少ないです。留学とはあくまで「語学を学ぶため、その国の理解を深めるための海外渡航」ではありますが、その中で出会えるかけがえのないものが必ず存在します。それは仲間であったり、その土地での経験や食べ物であったり、なんでもいいと思います。留学という貴重な機会を手にした人は、ぜひ心から楽しんで、充実したものにしてほしいです。

CQU 研修から学んだこと

2年 須藤 貴也

私は今回1ヶ月間のオーストラリア・CQユニバーシティ研修に参加し、今までにない経験をたくさん得ることが出来ました。まず、私たちはホームステイをして1ヶ月間過ごすため、最初はどのような方の家にホームステイをするのか少し不安を抱えながらのスタートでした。しかし、当日緊張しながらホームステイ先の方に挨拶に行くと、とても優しいホストファザーにとっても明るい子供が3人いて、子供は8歳の女の子と、3歳の男の子と女の子の双子でした。ホストファザーは親切に私が使っている部屋の紹介や子供の名前やトイレの場所の案内などをしてくれて、数分前まであった私の不安はすべて吹き飛び、子供たちも元気に笑顔で迎え入れてくれて、私を怖がることもなく部屋で大暴れして遊んでいました。しかし、私の英語力はそんなに高い方ではないため、子供たちやホストファザーの英語を聞き、返答することが困難でした。私はその時、わからないことをそのままにして適当に返事をしてしまうと大きなミスに繋がってしまいかねないと思ったため、私



は自分が理解できるまで繰り返し聞いてしっかりと返答するように努力しました。私は人生の中で1日中英語を聞き、話すという経験がなかったため、最初の方は大変だと思うことが多かったです。しかし、4日間程度で環境や1日中英語を聞き話すという生

活に慣れてきて、ホストファミリーや学校で聞き返すことがとても少なくなりました。私が当初感じていた疲れなどはなく、前よりも自然に英語が話せるようになっていくことを身をもって実感しました。

いつの間にかホームステイ先では8歳の女の子にとっても好かれ、学校から帰ると毎日のように私の部屋に入ってきて遊びに誘ってくるようになっていました。さらに、私はホストファミリーと積極的に会話をするようになり、私の英語力はとても向上しました。私はこのことから、最初の頃に努力して繰り返し聞いていたことやホストファミリーや子供たちと自ら積極的に会話をしようとして努力していたことは一つも無駄にはならず、自分の力を高めるためには完璧にできなくてもとにかく挑戦することがとても重要だということがわかりました。そのほかにも、日本では食べたことのない料理や、今までに見たことのないほどの素晴らしい景色などを見ることができ、私の人生の中で最も大きな思い出や成長が出来た1ヶ月間になったと思います。私は、この経験を活かし、今後も自ら積極的に挑戦していき、努力を忘れずに勉強していきたいと思いました。



名古屋外国語大学主催 学生通訳コンテスト

2020年11月28日(土)に名古屋外国語大学主催の学生通訳コンテストに英米語学科3年の田中結菜さんが出場しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてオンライン Zoom で開催され、出場者はリモート参加となりました。「ポストコロナの世界を生きるーパンデミックからの教訓ー “Lessons from the Covid-19 Pandemic”」をテーマに、全国9大学の代表学生が日英と英日の逐次通訳で内容の正確さや表現の豊かさを競い合いました。田中さんは、「医療ー医療現場とその諸問題 The medical field: Testing, care, and vaccination」について通訳し、コンテストに向けて他の学生たちと切磋琢磨して練習した成果を披露しました。

Interpreting Contest

Yuina Tanaka (3rd year)

We've been experiencing the new normal, and everything is different from what we are used to. Who is to say that everything went as scheduled or planned? Who knows when this situation will end? All of you may have been impacted both negatively and positively due to Covid-19. I am also one of those who has been impacted. I was actually going to study in Canada for about 8 months but it was cancelled due to this pandemic. Studying abroad was one of my biggest dreams, so I was really shocked when I found out I couldn't go to Canada. Then I thought that I needed to do something different in order to improve my English, instead of studying in Canada. One day, I heard there would be an Interpreting Contest in November and became interested in it. I later decided to participate in the contest.

Contestants were required to interpret from both English to Japanese and Japanese to English. The topic was “Lessons from the Covid-19 Pandemic” and there were nine subtopics for which participants prepared. On the day of the contest, it was decided by a lottery that I would be in charge of the subtopic, “The medical field: Testing, care, and vaccination”. In October, contestants received a word list and I worked on making texts with the given words. The work was really hard because there were so many words and I needed to search for news, history and other related information on the Internet. However, while practicing interpretation, I found that my English was really poor and my handwriting was just too messy. I was thinking

that making too many mistakes would be really embarrassing and I guessed that the contest would be extremely challenging as well. Moreover, although I honestly wanted to give up, I didn't have the courage to do so. I practiced interpretation with some of my friends for up to 10 hours a day until the very week of the contest.

On the day of the contest, I felt really nervous and my hands were really shaky as well. I felt relieved after the contest, even though I had almost given up before the contest. I thought that my choice in participating in this contest was right and also thought that it was good to be able to take part in it because I was able to learn from the other participants who are at a higher level. The challenge in participating in the interpreting contest motivated me to study English, and also made me realize again that I needed to study more and more. I was able to develop and learn through this experience thankfully.

Lastly, I want to thank Professor Matsui for all her support. If you are interested in the interpreting contest, or if you want to improve your English, please consider participating in the contest next November. I would say you would definitely be able to improve your English skills by experiencing such an event, so challenge yourself!!



英米語学科同窓会 明英の活動報告

Keep Calm and Carry On

明英代表 川部 翔

明海大学外国語学部英米語学科同窓会「明英」代表の川部です。この同窓会組織も、皆様のご支援を得て 15 年目を迎えることが出来ました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、恒例の親睦パーティーが実施できませんでした。いつか日常が戻り、対面で卒業生同士が顔を合わせられるイベントが企画できればと思っています。

タイトルの” Keep Calm and Carry On”は、第二次世界大戦の直前、イギリス政府が人々の混乱を避け、同時に士気を高めるために作成したものとされています。今年度は、明英の会員がコロナ禍においても、「冷静に、落ち着いて日々の生活を送っていただけるように」という思いを込めて、マスクケースを作成いたしました。(画像参照)

このような形で、コロナ禍においても同窓会としてできることを実施させていただいています。2021年2月14日(日)には、元明海大学教授の東山安子先生によるオンラインセミナーも実施いたしました。東山先生は、『英語教師のためのコミュニケーション読本』を2020年9月に出版され、その著書に基づいたお話をいただきました。

来年度以降も、柔軟な姿勢で同窓会事業を展開してまいります。在学生の皆さんには、卒業後、様々な情報をお届けしますので、イベントなどにぜひご参加ください。先生方におかれましては、コロナ禍で大変だと思いますが、くれぐれもお体を大切になさってください。同窓会として、何かお手伝いできそうなことがありましたら、ぜひご連絡ください。



卒業生からの手紙

大学生活は私の貴重な財産です

柴崎 恵美加

私は 2015 年に明海大学を卒業しました。在学中は主に異文化コミュニケーション学を学び、様々な貴重な体験をさせていただきました。

まずは UCLA 研修に参加し、初めてインターナショナルな環境を体感しました。トルコ、韓国、ブラジル、サウジアラビア、台湾、日本人のスーパーおばあちゃんなど、たくさんの友人が出来ました。私はスピーキングは苦手でしたが、滅多にない機会だからと割り切り、熱意と積極性をもってコミュニケーションを取りました。不安はありましたが、実際に飛び込んでみると楽しいことも情報量も多く、新しいことに挑戦することは悪いことではありませんでした。唯一、R と L の発音と聞き取りが苦手な友人にからかわれたことも良い思い出です。

アメリカ大使館と日米協会共催の新年会では、代表でご招待頂き、ジョン・ルース米国大使とデーブ・スペクター氏と接する機会がありました。事前にどのようなことを話すか考え、アメリカ人の先輩に相談したことを覚えています。結局私の話は出来なかったのですが、参加するまでの過程や場の雰囲気がさらに私をステップアップさせる出来事となりました。

英米語学科主催のスピーチコンテストにも挑戦しました。聞き手の興味を引く話の構成や発音に気を付けるだけでなく、言葉の抑揚をつけて話すことが意外と難しかったです。また、初めてトロフィーを手にする経験をしました。

真面目に勉学に励んだ大学を卒業後、社会人となりました。営業職に就くことが決まっていたので、明るく話すことを心掛け、メイクを覚え、ヒールのある靴を履き、スーツを着用して、いつもの自分と違うような、向上心のある気持ちで社会人となりました。

全国から集まった同期と泊まり込みで研修し、長期にわたり接することで、新たな刺激を得ました。今までの生活では出会わなかったような人と繋がり、仕事のことで悩みを話し合ったり、アドバイスし合ったり、適当なやり取りでも会話が進んだり、貴重な仲間を得ることが出来ました。

現在、私は医療に関わる商品を卸売りする企業で 5 年間営業職に就いたのち、営業推進部に配属となりました。営業経験を活かして、現場の営業の助けになるために販売促進ツ

ールの作成であったり、製品の特徴やセールスポイントをまとめたり、企画を立てたり、お取引様と交渉して様々な推進業務をしております。

主に全国のセールスに情報をメールで案内するため、表現には気を付けないといけません。営業活動で忙しく時間のないセールスに読んでもらえる文章を考え、伝えたいことを簡潔にまとめてメールします。お互い顔が見えず、全国には多種多様な人や環境があるので、全員に当てはまるような情報を発信することは難しいですが、やりがいがあります。ただいま私は製品カタログの作成に関わっており、さらなる推進活動に励んでいます。

社会人になったら、学生の頃と比べ、使える時間が確かに少なくなります。使えるお金の量が変わります。少し質の良い旅行に出かけたり、美味しいご飯を食べたり、友人とはどうでもよいことで盛り上がったり、楽しいことはまだ続きます。時に社会での厳しさに心を消耗することもあるでしょう。さらに、新型コロナウイルスの流行で、やりたいことが自由に出来ない厳しい状況下です。

大学を卒業してから、しばらく大学から離れていたのですが、今回の英米ジャーナルの執筆のため、ホームページに目を通しました。お世話になった先生方と直接ではごさいませんが改めて触れることが出来て嬉しく思います。人と人の繋がりは非常に大切なものです。皆様もまたどこかでお会いしましょう。



編集後記

It is our greatest pleasure to be able to present you with the 2020 Eibe Journal. The first students to receive this volume will be our graduating seniors, who will be leaving our campus after four years to take their first steps in society. We wish them the best of luck!

The Eibe Journal is a collection of articles looking back over the past academic year of the Department of English at Meikai University. What a challenging year this has been for all of us! Exactly one year ago, who would have predicted us to be where we are today, in our new lives *with Corona*. We have learned much over the last year: including how to social distance in a safe manner and how to use manaba as an educational tool for online teaching and learning. Unfortunately, we were not able to travel and study abroad as usual. Here you will find our reflections on the past year: our third-year seminars 「専門領域研究講座」 and our fourth-year seminars 「卒業研究」; our study abroad program to CQU in Sydney, Australia in Spring 2020 (unfortunately we were not able to hold any of our other study abroad programs) and several department-sponsored events.

Although we have faced many new challenges, at the same time, we have shown resilience and incredible growth. We hope that the new academic year will bring you even more learning and accomplishments, which we hope to document in next year's Eibe Journal.

2020 Eibe Journal Editorial Committee: Takako Maeda & Kei Nakamura

英米ジャーナル 第17号

2021年3月発行

明海大学 外国語学部 英米語学科

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

明海大学浦安キャンパス

TEL 047-355-5111 (代表)

印刷：佐藤印刷

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-10-2

